

7	126,000	253,350	109,000	112,500	150,202
8	119,500	223,550	100,000	109,000	138,013
9	120,800	215,000	133,000	112,500	145,425
10	126,500	216,500	133,000	121,000	149,250
11	96,800	122,300	87,260	86,000	98,200

(6) 本年収獲セル玄米ノ1升ノ重量及米粒ノ長サト幅

區別	1升ノ重量	長	サ	幅	員
1	368.3	4.845	4.845	2.995	
2	359.6	4.950	4.950	2.975	
3	361.3	4.820	4.820	2.980	
4	369.6	4.815	4.815	2.005	
5	371.6	4.720	4.720	2.965	
6	371.6	4.925	4.925	3.010	
7	372.0	4.840	4.840	2.985	
8	370.0	4.870	4.870	3.010	
9	366.3	4.755	4.755	2.955	
10	366.6	4.775	4.775	2.980	
11	370.3	4.830	4.830	3.020	

(7) 全上米質調査

區別	完全米	青米	腹白	碎米
1	21.990	3.198	54.632	13.180
2	32.692	3.696	59.495	4.117
3	19.185	12.475	55.033	13.307
4	20.323	3.964	68.700	7.007
5	20.322	3.607	69.372	6.699
6	19.253	3.026	68.885	9.836
7	20.341	2.124	69.714	7.821
8	23.712	1.897	69.998	4.393
9	41.829	3.687	48.666	5.818
10	26.334	5.647	64.101	7.918
11	21.708	2.350	70.489	5.453

□. 病原ニ就テノ研究

本年度ヨリハ各病徴別ニ其ノ病原ニツキ研究センガ爲メ類似病葉ノ採集

ヲ行ヒ、且又各種禾本科ニ發生スル類似ノ病害標本ヲ採集スルコトニ努メタリ、從テ未ダ其ノ結果ヲ發表スルニ至ラズ繼續施行セントス

成績概要 以上ノ成績ハ大略前年度ト同様ナルモ本年度ニ於テ調査セルモノニツキ述ブレバ、試験區別毎ニ其ノ發病歩合ヲ見ルニ無孔病葉ハ加里2倍區、磷酸3倍區、石灰2倍區及標準區ニ於テ多ク無肥料區、石灰4倍區ニ於テ少ナシ而シテ累年平均數ハ加里2倍區、磷酸2及3倍區ニ於テ多シ之ノ傾向ハ大体ニ於テ一致スルモ其害僅少ナルモノハ石灰4倍區、窒素3倍區ナルハ之少シク一致セザルモノト認メ得ベシ又有孔病葉ハ石灰2倍區、石灰4倍區、無肥料區及窒素2倍區ニ於テ多ク標準區、磷酸2及3倍區、加里2倍區ニ於テ少ナシ之レヲ累年平均ニ見ルニ害ヲ受ケ易キハ加里2倍區、石灰2倍區、無肥料區ニシテ大体本年度ノ成績ト一致シ其ノ害少キハ累年平均ニアリテハ磷酸3倍區、標準區ニシテ之レ亦本年度成績ト大体ニ於テ一致スルヲ見ル、即チ既往本縣ニ於テ俗ニ葉切病ト稱スルモノハ中、葉ニ孔ヲ有シテ發病スルモノ換言スレバ主トシテ稻ノ稈蠅(Chlorops oryzae Mats.)ノ被害ハ無肥料又ハ其他窒素質肥料ノ施用不足ノモノニ多ク發生スル傾向アルモノハ如シ、之ニ反シ無孔病葉即チ主トシテ病菌ノ寄生ニ因ルモノニアリテハ無肥料、石灰過多ノ場合ノ如ク窒素質肥料ノ施用及供給少キモノニハ發生僅少ニシテ之レ明ラカニ本縣ニ於ケル稻作上ノ欠點ヲ指示スルモノト認ムルヲ得ベシ、即チ從來本縣ニ多キ葉切病ハ病菌ニヨルモノト稈蠅ニヨルモノト何レヲ被害大ナリト斷言スルヲ得ザルノ狀況ニアリ、然ルニ葉切病ノ被害多大ニシテ俗ニ「葉切レ半作」ト稱フルガ如キハ既往ニ於テ肥料施用不足ノ事實或ヒハ肥料配合ニ於テ欠クル點ノ存セルモノト認メ得ズシテ何ゾヤ、近來ニ於テハ葉切病ノタメ特ニ甚シキ被害ヲ受クルモノヲ見ザルハ各種耕種法ノ進歩ニヨリテ改良セラレタル處多キニ因ルモノナリト思惟セラル

然リト雖モ病菌ノ寄生ニヨリテ來ル葉切病ハ稻ノ生育良好ナルモノニ發生スル事少ナカラザルノミナラズ又氣温其他外界ノ影響ニヨリ左右セラルハコト著大ナルモノアルハ已ニ明ラカナル處ナリトス、之等ノ點ニ關シテハ更ニ研究セントス

又稻種中肥料吸収ノ盛ンニシテ一般ノ地ニ於テハ往々肥料不足ノ如キ有様ヲ呈スルモノニ葉切レ(本縣ニ於テ俗ニ從來稱ヘ來レル)ノ多キハ又一面ヨリ見テ肥料不足ト同様ノ現象ヲ來スニ原因セズヤト認ム、例ヘバ愛國種ノ如キ之レナリ、猶此ノ點ニ關シテハ試験研究ノ上發表スル處アラントス

3. 稻熱病及稻大粒白絹病ト 品種トノ關係試驗 (續前第2年)

本試驗ハ本縣ノ獎勵原種ト稻熱病及稻大粒白絹病(菌核病)トノ發生多少(抵抗性)ノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ發生甚シキ圃場ニ栽培シ窒素肥料ハ標準ノ2倍量ダケ硫酸アンモニヤヲ以テ増用シ、各區5坪、1坪36株植トシテ施行セリ

成 績

品 種 名	大 粒 白 絹 病			穂 首 稻 熱 病			二 化 螟 虫	
	調査莖數	被害莖數	歩 合	調査莖數	被害莖數	歩 合	被害莖數	歩 合
越 前	843	115	13.6	537	—	—	71	13.2
岩 之 下	947	82	8.7	297	10	3.4	54	18.2
龜 之 尾	1298	262	20.2	196	—	—	38	19.4
高 田 早 生	1898	80	4.2	743	—	—	10	1.3
早 坊 主	1294	56	4.3	395	1	.3	38	9.6
大 場	1834	120	6.5	766	6	.8	43	5.7
改 良 愛 國	1684	111	6.6	809	2	.2	54	6.7
越 中 坊 主	968	60	6.2	333	—	—	49	14.7
中 生 高 宮	898	62	6.9	560	—	—	126	23.5
銀 葉	1596	73	4.6	111	1	.9	76	68.4
二 本 三	2540	112	4.1	421	—	—	77	18.3
石 白	400	24	6.0	357	30	8.4	18	5.1

備考 二化螟虫調査莖數ハ穂首稻熱病ニ同シ

今之レヲ前年度ノ被害歩合ト平均スルニ次ノ如シ

品 種 名	大 粒 白 絹 病	穂 首 稻 熱 病	二 化 螟 虫	備 考
越 前	27.1	—	10.5	穂首稻熱病ハ本年度1ヶ年ノ歩合ヲ示ス
岩 之 下	25.4	3.4	14.3	
龜 之 尾	35.7	—	11.4	
高 田 早 生	17.0	—	10.6	
早 坊 主	21.8	.3	11.8	
大 場	24.9	.8	7.4	
改 良 愛 國	24.1	.2	9.3	
越 中 坊 主	23.6	—	9.6	
中 生 高 宮	27.4	—	15.9	

銀 葉	二 本 三	石 白
28.9	.9	40.7
13.3	—	15.5
23.7	8.4	2.9

以上ノ2品種ヲ熟期別トナシ其ノ被害歩合ヲ求ムレバ次ノ如シ

熟 期	大 粒 白 絹 病		穂 首 稻 熱 病	二 化 螟 虫	
	本 年 度	2ヶ年平均	本 年 度	本 年 度	2ヶ年平均
早生種(9月20日以前ノ熟種)	10.2	25.4	.8	12.4	11.8
中生種(9月21日以後ノ熟種)	6.3	23.9	1.5	20.2	14.5

成績概要 本年度ニ於ケル大粒白絹病ノ發生ハ前年度ト少シク傾向ヲ異ニシ早生種ニ多ク中生種ニ少ナシ又穂首稻熱病ハ本年1ヶ年ノ成績ニヨレバ早生種ニ少ナク中生種ニ多シ、二化螟虫ハ又前年ト反對ノ結果ヲ示シ中生種ニ多シ、尙繼續研究セントス

4. 大豆病害試驗 (續前第5年)

本試驗ハ大豆ニ發生スル病害ニツキ研究シ其防除法ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ハ前年ニ繼續シ中魚沼郡下船渡村及ビ水澤村ノ土壤ニツキワグネル氏圓筒ヲ以テ試驗ヲ行ヘリ、下船渡村正面ケ原土壤ハ前年迄5ヶ年大豆ヲ連作セルモノ水澤村猪原土壤ハ前年迄3ヶ年大豆ヲ連作セルモノトス

1. 豌豆前作試驗

前年大豆ヲ次ノ區別ニ從ヒ栽培セル圓筒ニ無肥料ヲ以テ豌豆ヲ下種シ其ノ生育狀況ヲ驗セリ

區別	試 驗 別	反 當 施 肥 量			正 面 ケ 原 土 壤		猪 原 土 壤 (細 尾 原)	
		窒 素	磷 酸	加 里	5月29日	6月16日	5月29日	6月16日
1	無 肥 料 區	—	—	—	2.65	4.25	2.20	4.00
2	本 場 標 準 肥 料 區	.122	1.062	.888	3.50	7.45	3.55	13.30
3	正 面 ケ 原 普 通 肥 料 區	.864	2.090	1.039	3.35	8.80	2.85	8.60
4	全 上 磷 酸 2 倍 區	.864	4.180	1.039	3.75	9.45	3.50	9.00
5	全 上 窒 素 2 倍 區	1.728	2.080	1.039	3.55	10.60	3.70	11.50
6	全 上 3 倍 區	2.592	2.080	1.039	3.00	11.10	3.30	11.65
7	全 上 4 倍 區	3.456	2.080	1.039	3.45	10.50	3.90	12.35
8	本 場 土 壤 混 和 無 肥 料 區	—	—	—	3.55	9.80	3.50	11.00
9	本 場 土 壤 無 肥 料 區	—	—	—	3.75	17.80	4.15	19.50

之レヲ見ルニ本場土壤ニ比シ正面ケ原及猪原(細尾原)土壤ハ著シク不良

ナルヲ知り得ベク且窒素質肥料ノ施用多キモノ生育良好ナルノミナラズ磷酸ノ効果亦大ナルヲ認メ得ベシ、此ノ豌豆ヲ除去シ以上ノ區別ニ從ヒ施肥シ大豆試験ヲ施行セリ

大豆試験

各圓筒6株6月23日播種、9月18日収穫ス、刈羽瀧谷ヲ供試セリ

成績

(1) 發芽狀況

Table with columns for area (正面ヶ原土壤, 細尾原土壤), plot numbers (1-9), and germination dates/status.

(2) 生育狀況

Table with columns for area, plot numbers, and yield data (株高, 收穫量, etc.) for July and September.

(3) 收量

Table with columns for area, plot numbers, and various yield metrics (收穫莢數, 全重量, 實重量, etc.).

Table with columns for yield metrics (精豆粒數, 全上重量, 空莢重量) and plot numbers (1-9).

(4) 發病枯死株數

Table with columns for area, plot numbers, and disease/death statistics (下種粒數, 發芽粒數, etc.).

(5) 前年トノ平均數

Table with columns for area, plot numbers, and average yield data for the previous year.

備考 第9區ハ本年1ヶ年ノ數字ヲ掲ゲタリ

成績概要 以上ノ成績ニヨリ之レヲ見ルニ何レノ土壤ニ於テモ窒素ノ施用ハ其ノ効果顯著ナレドモ磷酸ノ効果ニ至リテハ特ニ顯著ナル成績ヲ示スニ至ラズ、本場土壤ヲ混和セルモノニアリテハ之レ亦成績良好ナルヲ認ムルヲ得ベシ、而モ本場土壤ニ栽培セルモノニ比シテ病地土壤ニ栽培セルモノ

ハ概シテ成績不良ナルハ益々病地土壤ノ生産力少ナキヲ証スルニ充分ナルモノナリ、本試験ニ就テハ尙依託試験ノ項ヲ参照セラルベシ

5. 白菜, 甘藍腐敗病試験 (繼續第9年)

本試験ハ本縣ニ於テ大害ヲ與フル十字科蔬菜類ノ腐敗病ニツキ研究シ此ノ防除法ヲ知ラントスルモノニシテ、前年度迄ニ石灰硫黃合劑ノ土壤消毒有効ナルノ成績ヲ得タルガ故ニ土壤消毒試験ハ本年度ニ於テハ專ラ之レニ關スル試験ヲ施行セリ、又黃筋蚤虫幼虫ノ根部喰害ハ本病ヲ誘發スルコト多キハ既往試験ニヨリ明カナルノミナラズ肥料ノ種類ニ依リテモ亦本病ヲ誘發スルコト少カラザルガ故ニ之レ等ニ關シ研究ヲ試ミントスルニアリ

イ. 石灰硫黃合劑土壤消毒試験 (繼續第2年)

試驗區別及方法

區別	試驗別	方法
1	1回消毒區	播種3日前ニホーメー1度液ヲ1坪1升ノ割合ニ撒布ス
2	2回消毒區	播種前消毒第1區ニ全シ第1回追肥1日前ニ消毒ス
3	3回消毒區	播種前第1回追肥前消毒ハ第2區ニ全シ尙第1回追肥5-7日後ニ1回消毒ス
4	4回消毒區	第3回迄ノ消毒ハ第3區ニ全シ尙第2回追肥1日前1回消毒ス
5	無消毒區	消毒セス

Ⅰ 大根ニ於ケル試驗成績

(1) 作業

練馬大根ヲ用ヒ9月2日播種、9月6日整一ニ發芽12月3日収穫ス

第1回土壤消毒藥劑撒布 8月30日

第2回藥劑撒布 9月27日 第3回同上 10月5日

第4回同上 10月14日、其他ノ作業ハ一般本場ノ耕種法ニヨル

(2) 間引株生育狀況

10月14日間引セルモノ、中ヨリ平均セル10株ヲ選出シ其ノ生育狀況及重量ヲ測定セル成績次ノ如シ(播種ヨリ43日目)

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區
葉長(寸)	9.840	10.440	8.850	8.730	10.380
根長(寸)	7.150	7.540	8.140	7.750	8.040
重量(匁)	18.987	25.253	13.333	14.373	19.707

(3) 収穫當時ノ狀況収量及發病株數

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區
地上部整否	整一	稍々整一	稍々不整	稍々整一	稍々不整
葉色	綠	綠	綠	淡綠	濃綠
生育狀況	盛	稍々盛	稍々盛	弱	盛
莖葉重量(匁)	1116.000	947.250	994.500	900.000	828.000
根部重量(匁)	1863.000	1685.250	1854.000	1307.250	1701.000
收穫株數	23450	22050	23850	18450	20250
1株重量	78.1	76.4	77.7	70.8	84.0
發病株數	900	1350	3150	1800	2350
發病歩合	3.8	6.1	13.2	9.8	11.1

Ⅱ. 白菜ニ於ケル試驗成績

(1) 作業

芝罘白菜ヲ用ヒ9月2日播種、9月6日整一ニ發芽、12月3日収穫ス、藥劑撒布、土壤消毒施行ハ前大根試驗ト同一ニシテ其他ノ耕種法ハ本場一般法ニ準ゼリ

(2) 収穫當時ノ狀況収量及發病株數

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區
地上部整否	不整	不整	最整	稍々整	稍々整
葉色	濃	濃	淡	最淡	最濃
生育狀況	弱	弱	最盛	稍々盛	稍々弱
収量(匁)	418,500	474,750	549,000	409,500	420,750
收穫株數	900	720	855	360	675
1株重量(匁)	.465	.659	.642	1.137	.623
發病株數	45	135	45	—	225
發病歩合	5.0	18.8	5.0	—	26.3

□. 黃筋蚤虫驅除試験 (繼續第10年)

試驗區別及方法

區別	試驗別	方法		
		調合量	施用量	使用方法
1	除虫菊木灰合劑撒布	除虫菊粉1容木灰10容	1坪10匁	發芽後害虫發生ヲ見タ
2	ナフタリン乾土合劑撒布	ナフタリン1容乾土4容	全	ルトキ第1回ノ撒布シ第2

3	除虫菊消石灰合劑撒布	除虫菊粉1容消石灰4容	1坪10匁	回以後ハ其ノ狀況ニヨ
4	除虫菊硫黄合劑撒布	全上1容硫黄10容	全	45-7日毎ニ3回撒布
5	石灰窒素哇間撒布	-	1坪20匁	スルモノトス
6	除虫菊浸出液撒布	除虫菊粉3匁水1升	1坪1升	
7	無撒布	-	-	

I. 燕苔ニ於ケル試験成績

(1) 作業

供試品種寄居燕苔, 9月8日播種, 9月11日發芽, 11月11日收穫セリ, 藥劑撒布ハ第1回ヲ9月27日, 第2回ヲ10月6日, 第3回ヲ10月15日ニ撒布セリ

(2) 収量

區別	收穫株數				收穫重量(匁)				1株重量(匁)			
	大株	中株	小株	合計	大株	中株	小株	合計	大株	中株	小株	平均
1	6600	7500	6900	21000	125.100	89.100	55.800	270.000	19.0	11.9	8.1	13.0
2	5100	4200	6600	15900	122.100	45.000	36.600	203.700	23.9	10.7	5.5	12.7
3	3300	4200	8700	16200	85.800	57.900	66.900	210.600	26.0	13.8	7.7	15.8
4	8100	9300	6000	23400	165.900	102.000	34.200	302.100	20.5	10.9	5.5	12.3
5	2100	7800	11400	21300	46.200	93.600	43.500	183.300	22.0	12.0	7.8	13.8
6	5100	10500	13500	29100	119.400	118.800	72.800	310.500	23.4	11.3	5.4	13.4
7	5400	4800	7800	18000	92.700	43.800	27.600	164.100	17.2	9.1	3.5	9.9

發病株各區共ナシ

八. 追肥トノ關係試驗 (繼續第2年)

試驗區別

區別	追肥三要素量	方 法		
			窒素	磷酸
2 { 人糞尿追肥土地消毒區	2.750	.500	1.000	追肥ハ4回ニ分施シ土
2 { 人糞尿追肥無消毒區	2.750	.500	1.000	地消毒ハ石灰硫黄合劑
3 { 人造肥料追肥消毒區	2.750	.500	1.000	ホーメー1度液1坪1升
3 { 人造肥料追肥無消毒區	2.750	.500	1.000	ヲ以テス
1 { 無追肥消毒區	-	-	-	
1 { 無追肥無消毒區	-	-	-	

I. 休菜ニ於ケル試験成績

(1) 作業

供試品種ハ廣島白莖休菜ヲ以テシ, 9月8日, 9月10日, 9月12日ノ3回ニ播種

セルモノニツキ施行シ12月6日收穫セリ。藥劑撒布(石灰硫黄合劑土壤消毒)ハ9月5日施行ス

(2) 生育, 収量及發病株數 (收穫時調査)

A. 9月8日播種區

區別	生育狀況	葉色	白斑病ノ多少	収量(匁)	收穫株數	腐敗病株數	腐敗病歩合(%)
2 { 消毒區	良	濃	多	337.500	2025	272	13.4
2 { 無消毒區	稍々良	淡	最多	675.000	1125	235	20.0
3 { 消毒區	最良	全	最少	749.250	1665	270	16.3
3 { 無消毒區	良	濃	少	477.000	2385	585	24.5
1 { 消毒區	最不良	淡	全	96.750	3060	315	10.2
1 { 無消毒區	不良	全	多	92.250	1395	225	16.1

B. 9月10日播種區

2 { 消毒區	最良	濃	最少	501.750	1215	90	7.4
2 { 無消毒區	良	稍々淡	稍々少	411.750	1665	405	24.3
3 { 消毒區	最良	濃	最多	893.250	1260	45	3.6
3 { 無消毒區	全	全	最少	319.500	1845	585	31.7
1 { 消毒區	最不良	淡	全	200.250	1395	46	3.3
1 { 無消毒區	不良	全	最多	90.000	2250	305	13.5

C. 9月12日播種區

2 { 消毒區	良	淡	稍々多	434.350	1530	90	5.9
2 { 無消毒區	全	稍々淡	稍々少	504.000	2115	145	6.8
3 { 消毒區	最良	濃	最少	562.500	1800	48	2.6
3 { 無消毒區	良	淡	稍々多	396.000	2385	95	3.9
1 { 消毒區	全	全	全	146.250	1350	45	3.3
1 { 無消毒區	稍不良	全	全	171.000	2295	124	5.4

二. 累年成績 (作物ヲ異ニスルヲ以テ平均ヲ示サズ)

試驗種類	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區	
土壤消毒試驗	収量	大正7年	507.000	654.500	528.000	496.000	240.000	-
		大正8年	418.500	474.750	549.000	409.500	420.750	-
	收穫株數	大正7年	1800	1700	1600	1600	600	-
		大正8年	900	720	855	360	675	-

黄筋蚕虫 驅除試験	發病 歩合	大正7年	35.0	13.0	12.0	12.0	83.0	—	—
		大正8年	5.0	18.8	5.0	—	26.3	—	—
	収量	大正7年	677,000	691,000	605,000	843,000	781,000	796,000	664,000
		大正8年	270,000	203,700	210,600	302,100	183,300	310,500	164,100
	株數	大正7年	5400	7200	6800	6800	6600	6000	6000
		大正8年	21000	15900	16300	23400	21300	29100	18000
發病 歩合	大正7年	11.1	12.5	16.7	10.0	24.2	10.0	35.0	
	大正8年	—	—	—	—	—	—	—	
試 驗 種 類		第 1 區 無消毒區	全消毒區	第 2 區 無消毒區	全消毒區	第 3 區 無消毒區	全消毒區		
追肥トノ 關係試験	収量	大正7年	689,400	—	560,400	—	910,800	—	—
		大正8年	92,250	96,750	675,000	337,500	477,000	749,250	—
	株數	大正8年	90,000	200,250	411,750	501,751	319,500	893,250	—
		大正8年	171,000	146,250	504,000	434,250	396,000	562,500	—
	大正7年	1800	—	1200	—	1800	—	—	—
		大正8年	1395	3060	1125	2025	2385	1661	—
大正8年	2250	1395	1665	1215	1845	1260	—	—	
	大正8年	2295	1350	2115	1530	2385	1800	—	
發病 歩合	大正7年	—	—	33.3	—	—	—	—	
	大正8年	16.1	10.2	20.0	13.4	24.5	16.3	—	
大正8年	13.5	3.3	24.3	7.4	31.7	3.6	—	—	
	大正8年	5.4	3.3	6.8	5.9	3.9	2.6	—	

成績概要 以上ヲ通覽スルニ石灰硫黄合劑ヲ以テ土壤ヲ消毒スル方法ハ収量ニ在リテハ2—3回ノ消毒ニ於テ多ク収穫株數ニ在リテハ1—2回消毒ヲ可トシ發病歩合ハ4回消毒ヲ最モ少ナリトス、黄筋蚕虫驅除トノ關係ニ於テハ収量ニ在リテハ第4區(除虫菊粉硫黄合劑)及第6區(除虫菊浸出液)最モ多ク、収穫株數ニ在リテハ第2區(ナフタリン乾土合劑)及第6區(除虫菊浸出液)多シ、又發病歩合ニ在リテハ第4區及第6區最モ良好ナルヲ示セリ、尙追肥トノ關係試験ニ於テ収量多キハ無消毒及消毒共ニ人造肥料追肥區株數多キハ無消毒區、消毒區共ニ無追肥區猶發病歩合ニテハ無消毒區、消毒區共ニ無追肥又ハ人造肥料追肥區ニ於テ少キヲ示シ人尿尿區ニ最モ多シ之レ大体ニ於テ一致ノ傾向ヲ示セリ、即チ2ヶ年同一ノ試験ニ於テハ消毒用トシテ石灰硫黄合劑ヲ撒布スル場合ニハ2回位ヲ可トシ又きすぢのみむしヲ驅除スルニハ除虫菊浸出液或ハ除虫菊粉硫黄合劑ノ如キ藥劑ヲ撒布シ(3回以下)又追肥

トシテハ出來ル限リ人造肥料ヲ液肥トシテ用フルヲ以テ發病ヲ少クセシムルコトヲ得ベシ、尙繼續施行セントス。本試験ニ就テハ尙依託試験ノ項ヲ參照セラルベシ

6. 茄立枯病土壤消毒試験 (新設)

本試験ハ茄立枯病(青枯病)ヲ防除スルニ石灰硫黄合劑土壤消毒法ノ有効ナルハ已ニ明ラカナルガ故ニ此ノ石灰硫黄合劑ノ調製原料配合量ト防除効力トハ如何ナル關係ヲ有スルカラ知ラントスルニアリ

試 驗 區 別

區 別	試 驗 別	方 法
1	硫黄多量式液區	硫黄華1000匁、生石灰500匁、水1斗
2	硫黄石灰等量式液區	硫黄華 500匁、生石灰500匁、水1斗
3	石灰多量式液區	硫黄華 500匁、生石灰1000匁、水1斗
4	無 撒 布 區	—

成 績

(1) 作 業

供試品種蔓細千成種(早生)5月19日各區共石灰硫黄合劑ヲ撒布シ土壤消毒ヲナス、5月23日移植、10月6日収穫セリ、其他ノ管理ハ本場標準法ニヨル

(2) 發 病 株 數

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區	
總 株 數	16	16	16	16	
7月2日調査	發 病 株	2	3	6	10
	枯 死 株	2	1	4	7
計	4	4	10	11	
發 病 歩 合 (%)	25.0	25.0	62.5	68.8	

(3) 収 穫

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區	
產 葉	重 量 (匁)	637.0	541.0	347.0	356.0
	1株平均重量(匁)	45.5	36.0	28.9	23.7

個 數	健全株1株平均重量	48.5	39.7	40.5	38.8
	發病株1株平均重量	27.0	21.7	17.3	16.2
	7月2日收穫	6	9	13	9
	7月12日收穫	15	17	18	16
	8月11日收穫	44	33	22	19
	8月19日收穫	29	31	17	16
	9月2日收穫	31	38	55	17
	9月8日收穫	43	41	54	37
	9月16日收穫	62	50	27	44
	9月26日收穫	46	72	40	47
	10月4日收穫	62	47	16	38
	10月6日收穫	28	37	29	17
	合計	366	375	286	260
	重量(匁)	7月2日收穫	65	86	95
7月12日收穫		176	174	126	141
8月11日收穫		474	262	202	184
8月19日收穫		351	368	197	250
9月2日收穫		574	533	517	173
9月8日收穫		454	409	450	301
9月16日收穫		641	397	200	314
9月26日收穫		516	689	450	543
10月4日收穫		200	148	37	112
10月6日收穫		309	409	265	175
合計		3,780	3,475	2,539	2,270
1株収量	個 數	26.2	25.0	23.8	17.3
	重 量 (匁)	270.0	232.7	211.6	151.3
指 數	個 數	140.8	144.2	110.0	100.0
	重 量 (匁)	168.5	153.1	111.8	100.0
	1株個數	151.4	144.5	137.5	100.0
	1株結果重量(匁)	173.4	153.8	139.8	100.0

成績概要 本年度ノ試験ニ於テハ硫黃多量式(硫黃2,生石灰1)液最モ有効ナルヲ知レリ,尙繼續試験セントス

蟲害ニ關スル試験 第一一般害蟲

1. 拳樹綿蟲驅除試験 (繼續第4年)

本試験ハ雪害ニヨリ供試樹ノ枯死セルモノ多カリシ故ニ本年度ハ之レヲ中止セリ

2. 蝻蝨喰害防除試験 (繼續第14年)

蝻蝨ノ喰害防除法ヲ知ラントスルモノニシテ專ラナフタリンノ効果ニツキ試験ヲ施行セリ

試験區別及方法

區別	試 驗 別	方 法	
		1坪施用量	施 用 時 期 及 方 法
1	標準無撒布區	—	—
2	ナフタリン1回施用區	5匁	(1)播種當時堆肥ニ混シ施用ス
3	全上2回施用區	5匁	(1)播種當時全上,(2)發芽後7-10日目ニ淺ク畦ノ兩側ニ撒布ス(3)撒布シタル後覆土シ尙畦上ニ撒布ス,少量ナルガ故ニ圃土ト混和施用ス
4	全上3回施用區	5匁	(1)(2)同上,(3)ハ(2)撒布後7-10日目ニ同様ニ施用ス
5	ナフタリン硫黃合劑2回施用區	5匁	(1)(2)ハ第3區ト同様ニ施用ス
6	鷄尿1回施用	50匁	堆肥ニ混シ施用ス

ナフタリン硫黃合劑ハナフタリン1容硫黃華1容ノ割合ニ配合ス

1. 秋作大麥試驗成績

(1) 作 業

供試大麥ハ今朝白種,大正8年10月4日播種,10月9日發芽開始,大正9年6月25日收穫ス,標準區以外各試驗區ノ境界ニハ1畦ノ番外區ヲ設ク。其他作業ハ本場一般耕種法ニヨル

(2) 發芽及生育狀況

區 別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區
發芽(地上出現)月日	10月9日	10月9日	10月9日	10月9日	10月9日	10月9日	10月9日
發芽狀況	瓦,整一	瓦,整一	瓦,整一	瓦,整一	瓦,整一	瓦,整一	瓦,整一
10月24日草丈(寸)	4.873	4.813	4.691	4.886	4.664	5.611	5.230
11月3日全上	7.880	8.395	7.718	7.995	7.818	9.308	8.787
全日分蘗數(本)	2.50	2.75	2.45	2.28	2.45	2.70	2.77
11月18日草丈(寸)	10.843	11.048	9.478	9.163	9.445	11.080	11.388

11月18日分蘖數(本)	4.48	3.95	3.45	3.08	3.50	4.25	3.95
收穫容量(石)	.705	1.155	.945	.609	.783	.750	-
1升重量(匁)	300.0	275.0	257.8	305.4	275.8	248.0	-
麥稈重量(匁)	40.800	44.550	38.550	30.450	25.200	27.600	-

(3) 被害狀況

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區
10月20日 被害個所數	36	28	25	32	25	28	45
全上株數	134	201	134	438	346	154	345
10月27日 被害株數	77	84	76	114	116	100	113
11月3日 被害個所數	17	11	16	11	11	8	21
全上株數	36	25	48	34	56	22	47
11月5日 被害個所數	22	18	24	19	18	25	21
全上株數	63	28	96	61	57	75	71
11月12日 被害個所數	8	4	12	14	6	14	19
全上株數	30	17	56	74	26	107	72
11月18日 被害個所數	5	4	15	14	18	6	14
全上株數	13	10	19	39	49	6	23
合計 被害個所數	88	65	92	90	78	76	113
全上株數	353	363	429	760	650	464	671
歩合 被害個所數	16.7	10.8	15.3	15.0	13.0	12.6	-
全上株數	13.9	9.8	11.6	20.6	17.6	12.6	-

備考 標準區ハ2區平均ナリ

□. 春作大麥試驗成績

(1) 作業

供試品種獨乙春麥ニ大正8年4月16日播種, 4月23日發芽開始

(2) 發芽及生育狀況

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區
發芽狀況	莖	稍々莖	稍々莖	稍々莖	稍々莖	稍不莖	莖
5月12日草丈(寸)	5.415	5.418	5.374	5.231	5.354	5.481	5.384
5月17日全上	7.070	7.105	7.216	7.128	7.188	7.565	7.093
5月28日全上	14.263	14.075	13.690	13.690	14.101	13.830	13.832
5月29日分蘖數(本)	9.7	7.9	8.8	7.6	8.1	8.9	8.5

6月19日 草丈(寸)	28.553	30.220	29.400	28.480	29.190	28.180	28.144
分蘖數(本)	7.5	6.7	7.9	7.0	6.8	7.0	7.1
種實容量(石)	.971	1.073	1.320	.750	.988	.825	-
種實1升ノ重量(匁)	271	263	275	252	265	290	-
麥稈重量(匁)	57.188	60.300	61.500	52.860	48.365	57.395	-

(3) 被害狀況

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區
5月12日被害株數	291	23	19	71	63	142
5月17日全上	196	10	10	50	29	77
5月28日全上	393	27	26	48	58	156
合計	820	60	55	109	150	375
被害歩合(%)	50.3	3.6	3.3	10.3	9.2	23.0

備考 標準區ハ2區平均ナリ

ハ. 秋麥及春麥平均被害歩合

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區
秋麥 被害個所	16.7	10.8	15.3	15.0	13.0	12.6
全株數	13.9	9.8	11.6	20.6	17.6	12.6
春麥 株數	50.3	3.6	3.3	10.3	9.2	23.0
平均 被害個所	16.7	10.8	15.3	15.0	13.0	12.6
全株數	32.1	6.7	7.5	15.5	13.4	17.8

成績概要 既往試驗ニツキテ之レヲ見ルニ大正4, 5兩年ノ成績ニヨリナフタリンノ本虫防除ニ効力大ナルヲ知リ大年6年ヨリハ專ラナフタリンノ應用ニツキ試驗ヲ重ネタリ, 其ノ結果ニヨレバ元肥トシテ施用スル堆肥其他ノモノニナフタリンヲ混ジ施用セルモノ最モ有効ニシテ其効率他ノ方法ニヨルモノヨリモ數倍ニ達スルヲ知レリ, 又權田式麥作法ニ鶏屎ヲ混用スルハ專ラ本虫其他ノ地虫害虫ヲ防除スル爲メナリトノ事實ヲ知ランタメニ之レヲ試驗セルニ標準區ニ比シ効果大ナルモ, ナフタリン施用法ニ比シテハ數等其ノ効率ニ於テ劣レルヲ知レリ, 然レドモナフタリンヲ使用セザル場合ニハ鶏屎ノ施用モ亦排斥スベキモノニ非ズト認メラル, 尙ナフタリンノ麥其他ニ及ボス關係ニ就テハ更ニ研究ヲ重ネントスルモ亦藥劑試驗ノ項ヲ參照セラルベシ

3. 萃樹綿虫歩行力試験 (新設)

本試験ハ萃樹綿虫(Eriosoma lanigera)成(雌)虫ノ歩行力ヲ知ラントスルニアリ

試験方法

成(雌)虫ヲ2尺—1.5尺ノ方眼紙上ニ放テ歩行ノ跡ヲ鉛筆ニテ書線シ之ノ距離ヲ測定ス、6月27日午後2時着手、5時31分日暮ノタメ室内暗黒トナリシヲ以テ中止セリ

成績

回数	歩行時間	歩行距離(寸)	休歩時間	1寸ヲ歩行スルニ要スル時間	1分間ニ歩行セル距離
1	10分間	7.750	4秒	1分17秒餘	750
2	4分間	5.125	2秒	48秒餘	1,275
3	40分間	46.750	1秒	51秒餘	1,169
4	2時間30分間	190.750	1分間	47秒餘	1,271
5	7分間	12.895	—	32秒餘	1,839
計	3時31分間	261.250	1分7秒	51秒餘	1,261

成績概要 本試験ハ表面平滑ナル紙上ニ於テ測定セルガ故ニ不自然ナルヲ免カレズト雖モ大様6月(發現當初)頃ノ成(雌)虫ノ歩行力ニツキテハ次ノ如キ觀察ヲナシ得タリ

- (1) 成(雌)虫ハ時々休憩スルトキハ2時間以上連続シテ歩行シ得
- (2) 休憩ノ時間ハ3時31分間2丈6尺1寸2分5厘ノ歩行ニ對シ僅々1分7秒ナリ、從ツテ其ノ脚力ハ健全ニシテ寧ろ吾人ノ豫想以上ニ及ブ
- (3) 日光ノ存在ニヨリテ室内ノ明ルキ時ハ1分間ニ凡ソ1寸1—2分ヲ歩行スルモ室内暗黒トナルニ至レバ2寸近クヲ歩行シ又1寸ノ距離ヲ歩行スルニ室内明ルキトキハ1分位ヲ要スルモ暗黒トナルニ至レバ30秒ニ近キ時間ニ歩度ヲ伸長スルモノ、如シ
- (4) 綿虫ノ春季ニ於ケル移轉ニ就テハ尙多クノ條件アリトハ雖モ其ノ歩行力ノ强健ナルモ亦一因ナルベシ
- (5) 若シ春季ニ移轉スル場合ニハ其ノ主トシテ成虫ニヨルヤ又幼虫ニヨルヤハ不明ナルモ亦雌虫ノ之ヲ行フ場合少ナカラザルベシ
- (6) 右試験中ノ觀察ニヨレバ成(雌)虫ハ常ニ暗黒ノ方向ニ歩行ス

第二 二化螟虫

1. 稻芟除ノ影響試験 (繼續第4年)

本試験ハ二化螟虫第一回幼虫ノ被害劇甚ナルニ當リ稻株ヲ地上ニ近ク刈取リ驅除ヲ行ヒタル場合稻ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノナリ

試験區別及方法

區別	試験別	方法
1	無芟除區	芟除セズ
2	移植20日目芟除區	移植後20日目ニ地上2寸位ヨリ芟除ス
3	全上追肥増用區	移植後20日目ニ地上2寸位ヨリ芟除シ後直チニ人尿尿60貫ヲ施用ス
4	移植30日目芟除區	移植後30日目ニ地上2寸位ヨリ芟除ス
5	全上追肥増用區	移植後30日目ニ地上2寸位ヨリ芟除シ直チニ人尿尿60貫ヲ施用ス
6	被害最盛時芟除區	被害最盛期ニ當リ地上2寸位ヨリ芟除ス
7	全上追肥増用區	被害最盛期ニ當リ地上2寸位ヨリ芟除シ直チニ60貫ノ人尿ヲ施用ス

成績

(1) 作業及被害莖數

供試品種石白種、6月6日移植、6月27日第2第3區芟除、7月4日第6第7區芟除、7月6日第4第5區芟除、10月8日収穫ス、今摘採セル被害莖數ヲ示セバ次ノ如シ

區別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區
第1回被害莖數	7月4日摘採	34	—	—	34	50	42
	7月10日全	44	3	5	—	—	—
	合計	78	3	5	34	50	42
第2回被害莖數	被害歩合	31.2	1.2	2.0	13.6	20.0	16.4
	8月26日摘採	98	81	87	34	29	19
	9月10日全	45	28	30	10	16	5
合計	9月19日全	8	7	5	5	4	3
	合計	151	116	122	49	49	27
	被害歩合	27.5	21.1	22.2	8.9	8.9	4.9

(2) 生育状況

區 別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區
6月17日 草丈(尺)	1,036	1,013	1,018	1,016	1,000	1,081	1,032
6月27日 全 上	1,367	200	200	1,290	1,258	1,271	1,261
7月4日 { 草 丈	1,438	1,435	1,339	1,397	1,312	1,276	1,390
{ 莖 數	30.5	19.0	22.6	36.6	29.9	27.5	24.5
7月17日 { 草 丈	2,191	2,180	1,813	1,619	1,582	1,425	1,456
{ 莖 數	28.8	40.0	45.3	33.5	28.4	41.9	42.8
7月30日 { 草 丈	2,772	2,718	2,488	2,090	2,182	2,088	2,152
{ 莖 數	27.8	34.6	35.0	27.2	26.4	26.0	26.8
8月20日 { 草 丈	3,865	3,486	3,461	3,077	3,219	3,198	3,037
{ 莖 數	—	—	—	—	—	—	—
{ 草 丈	3,979	4,073	3,966	3,731	3,817	3,917	3,807
{ 莖 數	25.5	28.5	34.3	32.5	29.1	26.7	24.6
10月8日 { 穗 數	23.4	24.5	31.0	25.2	25.2	25.9	22.9
{ 穗長(寸)	8.25	7.62	7.33	6.91	7.15	7.11	6.94
9月14日夜ノ暴風ニヨリテ倒伏セル狀況	莖強弱 弱	莖強弱 弱	莖強弱 弱	莖強弱 稍強	莖強弱 稍弱	莖強弱 稍強	莖強弱 稍強
	7 割倒	8 割倒	8.5 割倒	1.5 割倒	5 割倒	6 割倒	7 割倒

(3) 収 穫

區 別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區
玄米収量(石)	3,088	3,263	2,950	2,005	2,639	2,783	2,681
1升重量(匁)	360	360	362	371	362	363	366
莖重量(匁)	104,000	115,000	92,000	86,200	97,400	96,800	97,200
籾容量(石)	5,118	5,400	3,690	4,986	4,338	4,500	4,290

(4) 米質及米粒ノ幅員

區 別	第1區	第2區	第3區	第4區	第5區	第6區	第7區
青米歩合(%)	16.0	14.5	13.0	10.8	14.9	14.8	11.1
碎米歩合(%)	6.9	6.8	8.5	3.7	7.0	5.8	4.6
腹白米歩合(%)	24.4	16.6	28.5	8.3	18.6	15.2	16.1
米粒長サ(c.m)	5,255	5,365	5,295	5,330	5,345	5,340	5,315
米粒ノ巾(c.m)	2,925	2,945	2,930	2,910	2,930	2,895	2,915
籾摺歩合(分)	6.03	6.43	5.92	5.43	6.08	6.18	6.28
完全米歩合	52.7	62.1	50.0	77.2	64.5	64.2	68.1

成績概要 以上ノ成績ハ移植20日目ニ於ケル莖除ハ収量ニハ殆ト影響ナシト認ムルコトヲ得ベシ、之レ已往ノ成績ト一致ス、又追肥増用ハ其ノ莖葉ノ莖除ニヨリテノ生育ヲ補給スルノ効果ヲ認メザルモノ、如シ、即チ6月下旬迄ニ於テ稻株ヲ莖除スルモ影響ヲ與ヘザルモ7月以後ニ於テハ其ノ莖除期ノ遅ルハニ從テ減収ス、而シテ若シ7月中旬ニ近キ頃ヨリ以後ニ莖除セル場合ニハ追肥増用ヲ行フヲ可トスルモノ、如キモ其ノ分量及肥料配合等ニ於テハ尙試験ノ必要ヲ認ム、本試験ノ傾向ハ4年間良ク一致スルヲ見ル、又二化螟虫ノ被害ヲ見ルニ第一回發生虫ハ莖除區ニ極メテ僅少ヲ見ルモ第二回發生ノ被害ハ標準區ト大差ナキヲ見ル、從テ莖除セル場合ト雖モ第二回ノ被害莖ハ極力摘採スルヲ必要トス

2. 第一回被害影響試験 (繼續第2年)

本試験ハ大正6年ノ繼續ニシテ第一回幼虫ノ被害ガ如何ナル程度迄収量其他ニ影響ヲ及ボスモノナルヤヲ知ラントスルニアリ

試験區別及方法

區 別	試 驗 別	方 法	備 考
1	被害劇甚區	卵塊100ヲ放ツ	自然狀態ノ發生ニ於テ已ニ不公平ナル狀況ヲ呈スル場合アルヲ以テ豫メ之レヲ防止スルダメ移植トナシ且無害苗ヲ選ビ又放卵前之レヲ檢シ出來ルダケ均一狀態トナラシムルコトニツトム
2	被害中庸區	卵塊50ヲ放ツ	
3	被害輕少區	無 放 飼	

成 績

(1) 作業及被害莖數

供試種石白種、6月16日移植、各區ニ6月25日放卵シ10月8日收穫セリ、第一回被害莖ハ放任セルモ第二回被害莖ハ極力之ヲ摘採シ第二回被害ニヨル影響ヲ除去スルコトニ努メタリ、今第二回被害莖摘採本數ヲ示セバ次ノ如シ

區 別	第 1 區	第 2 區	第 3 區
8月26日 摘採數	104	81	30
9月10日 全 上	142	92	55
9月19日 全 上	26	5	2
合 計	272	178	87
全 上 被害ノ比例	3,126	2,046	1,000

(2) 生育状況

區 別	第 1 區	第 2 區	第 3 區
6月17日 草丈(尺)	.950	.991	1.024
6月27日 草丈(尺)	1.431	1.407	1.381
7月4日 { 草丈	1.449	1.446	1.345
{ 莖數	31.6	29.3	30.1
7月17日 { 草丈	2.086	1.941	1.481
{ 莖數	25.8	25.2	44.1
7月30日 { 草丈	2.594	2.580	2.614
{ 莖數	33.4	35.6	39.0
8月20日 { 草丈	3.731	3.601	3.852
{ 莖數	—	—	—
10月8日 { 草丈	3.989	4.608	3.981
{ 莖數	29.7	29.3	29.5
{ 穗長(寸)	7.55	8.07	7.64
{ 穗數	27.9	27.7	28.7
9月14日夜ノ暴風ニヨリテ倒伏セル状況	9.5割倒	9.5割倒	9割倒

(3) 収 穫

區 別	第 1 區	第 2 區	第 3 區
玄米容量(石)	2.812	3.059	3.070
全1升重量(匁)	356	358	361
籾容量(石)	4.740	5.070	5.370
籾重量(匁)	101,357	98,571	104,143

(4) 米質及米粒ノ幅員

區 別	第 1 區	第 2 區	第 3 區
青米歩合(%)	12.9	12.7	9.4
碎米歩合	6.9	8.6	5.2
腹白米歩合	23.5	16.6	18.7
完全米歩合	56.7	62.1	66.7
籾摺歩合	6.0	5.9	5.7
米粒ノ長(c.m)	5.255	5.350	5.350

米粒ノ巾(c.m)	2.865	2.000	2.000
-----------	-------	-------	-------

(5) 累年平均

區 別	被害劇甚區	被害中庸區	被害輕少區	
收穫當時 { 草丈	大正6年	3.050	3.220	3.110
	大正8年	3.989	4.608	3.981
	平均	3.519	3.914	3.546
莖數	大正6年	25.0	27.0	29.0
	大正8年	29.7	29.3	29.5
	平均	27.4	28.2	29.3
第2回被害莖數	大正6年	111	80	32
	大正8年	272	178	87
	平均	192	129	59
玄米収量	大正6年	1.907	2.168	2.111
	大正8年	2.812	3.059	3.070
	平均	2.350	2.614	2.591
穗長	大正6年	7.30	7.50	7.20
	大正8年	7.55	8.07	7.64
	平均	7.43	7.79	7.42

成績概要、以上ノ成績中被害中庸區ニ於テハ稍々疑問トスベキ點ナキニ非ザルモ被害劇甚區ハ莖數ニ於テ玄米収量ニ於テ明ラカニ劣レルヲ知リ得ベク被害莖數ニ於テ多少アルハ當然ナリトス

即チ第一回發生幼虫ノ加害ニアリテモ其ノ劇甚ナル場合之レヲ自然ニ放任センカ遂ニ収量ヲ減少スルノ結果ヲ生ズルノミナラズ米質ヲ劣惡ナラシムルハ本年ノ成績ヲ以テ充分ニ察知スルコトヲ得ベシ

3. 被害莖摘採ノ動搖及踏切ノ影響試験 (繼續第2年)

本試験ハ前年ヨリ向フ5ヶ年間施行スベキ農商務省ノ命ニヨリテ行フモノニシテ被害莖摘採ノ効果、稻動搖及踏切ノ影響ニツキテ知ラントスルニアリ

1. 葉鞘變色莖摘採効果試験

試験區別及方法

區別	方法	收穫後ノ處置
甲. 被害ノ多キ區	1. 摘採區 2. 標準區	各區共ニ稻ハ架乾2週間 間糶ハ庭乾3日間トス
乙. 被害中庸區	1. 摘採區 2. 標準區	
丙. 被害輕少區	1. 摘採區 2. 標準區	

成績 (石白種)

區別	甲		乙		丙	
	1	2	1	2	1	2
總株數	720	720	720	720	720	720
摘採木數	2395	—	1910	—	989	—
人員延時間(時分)	3.30	—	3.00	—	2.10	—
反當摘採木數	4790	—	3820	—	1978	—
反當人員延時間(時分)	7.00	—	6.00	—	4.20	—
摘採木數	2180	—	1610	—	904	—
人員延時間(時分)	3.00	—	2.30	—	2.00	—
反當摘採木數	4360	—	3220	—	1808	—
反當人員延時間(時分)	6.00	—	5.00	—	4.00	—
摘採木數	2001	—	1186	—	713	—
人員延時間(時分)	2.50	—	2.00	—	1.40	—
反當摘採木數	4002	—	2372	—	1426	—
反當人員延時間(時分)	5.40	—	4.00	—	3.20	—
摘採總木數	13170	—	9412	—	5212	—
總人員延時間(時分)	18.40	—	15.00	—	11.40	—
全上賃金(圓)	.840	—	.675	—	.525	—
粗容量(石)	4.163	4.155	4.159	4.158	3.893	3.823
批容量(石)	.150	.158	.103	.188	.090	.180
玄米容量(石)	2.918	2.618	2.610	2.577	2.573	2.430
全上價額(圓)	143.022	128.282	129.717	126.273	129.679	120.771
摘採効果(収支)(圓)	(+) 13.900	—	(+) 2.769	—	(+) 8.883	—
玄米1升重量(匁)	366	362	368	366	369	368
玄米1升價值(圓)	.490	.490	.497	.490	.504	.497
玄米等級	5.4	5.5	4.8	5.3	3	4.2

備考 人夫賃ハ女10時間45錢ノ割合、玄米ノ等級ハ長岡穀物検査支所ノ鑑定ニシテ價值ハ市價

ニヨル、表中(+)ハ利益(-)ハ損失ヲ示ス

□. 稻開花期ニ於ケル葉鞘變色莖摘採ノ影響試験

甲. 摘採ト株間踏切及動搖比較試験

本試験ハ葉鞘變色莖ノ摘採ヲ行ヒタルモノト、行ハザルモノ恰モ之レヲ行ヒタルト同様ニ株間ヲ踏ミ且稻ヲ動搖シタルモノトノ比較ヲ行フヲ目的トスルモノニシテ石白種ヲ以テ供試ス

試験區別及方法

區別	方法
甲. 摘採區	1. 摘採區 2. 標準區
乙. 踏切及動搖區	1. 踏切及動搖區 2. 標準區

開花期ヲ中央トシ前後各1回計3回5日隔テニ摘採ス
施行セズ
開花期ヲ中央トシ前後各1回計3回5日隔テニ株間ヲ踏ミ且稻ヲ動搖ス
施行セズ

收穫後ノ處置ハ其一試験ニ全シ

成績

區別	甲		乙	
	1	2	1	2
總株數	720	720	720	720
摘採木數	2035	—	—	—
人員延時間(時分)	3.50	—	—	—
反當摘採木數	4070	—	—	—
反當人員延時間(時分)	7.40	—	—	—
摘採木數	1509	—	—	—
人員延時間(時分)	3.00	—	—	—
反當摘採木數	3018	—	—	—
反當人員延時間(時分)	6.00	—	—	—
摘採木數	1014	—	—	—
人員延時間(時分)	2.50	—	—	—
反當摘採木數	2028	—	—	—
反當人員延時間(時分)	5.40	—	—	—
摘採木數	9116	—	—	—
人員延時間(時分)	19.20	—	—	—
全上賃金(圓)	.870	—	—	—
粗容量(石)	4.635	4.365	4.568	4.208
批容量(石)	.105	.150	.150	.150

玄米容量(石)	2,730	2,715	2,675	2,700
全上價額(圓)	135,681	133,035	131,075	134,190
摘採効果(収支)(圓)	(+) 1,776	-	(-) 3,115	-
玄米1升重量(匁)	368	366	365	366
玄米1升價値(圓)	.497	.490	.490	.497
玄米等級	4.4	6.5	5.1	4.5

備考 入夫賃及玄米等級等ハ其一試験ニ全シ

乙. 株間踏及動搖ノ影響試験

本試験ハ摘採ヲ行ハズ只株間ヲ踏ミ且稻ヲ動搖スル場合稻ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ石臼種ヲ供試セリ

試験區別及方法

區別	方法
甲	1. 3回施行區
	2. 標準區
乙	1. 5回施行區
	2. 標準區
丙	1. 7回施行區
	2. 標準區

成績

區別	甲		乙		丙	
	1	2	1	2	1	2
總株數	1440	1440	1440	1440	1440	1440
粗容量(石)	4,560	4,260	4,868	4,420	4,545	4,718
糶容量(石)	.180	.165	.195	.103	.165	.135
玄米容量(石)	2,895	2,700	2,933	2,775	2,880	2,728
全上價額(圓)	141,855	132,300	145,770	135,975	143,136	133,427
標準トノ價額ノ差(圓)	(+) 9,555	-	(+) 9,795	-	(+) 9,709	-
玄米1升重量(匁)	366	367	367	366	368	368
全上價値(圓)	.490	.490	.497	.490	.497	.490
玄米等級	5.8	5.2	4.6	5.2	4.1	5.9
備考	前區ヨリ1斗9升5合多	-	前區ヨリ1斗5升8合多	-	前區ヨリ1斗5升7合多	-

累年平均

試驗區別	粗容量(石)	玄米容量(石)	玄米價値(圓)	損益(圓)		
其一 試驗	甲	大正7年	6.000	3.900	152.100	(+) 25.914
		大正8年	4.163	2.918	143.022	(+) 13.900
		平均	5.084	3.409	147.561	(+) 19.907
		大正7年	5.400	3.290	125.020	-
		大正8年	4.155	2.618	128.282	-
		平均	4.778	2.954	126.651	-
	乙	大正7年	5.000	3.696	143.405	(+) 15.021
		大正8年	4.159	2.610	129.717	(+) 2.768
		平均	4.579	2.153	136.561	(+) 8.895
		大正7年	5.400	3.348	127.559	-
		大正8年	4.158	2.577	126.279	-
		平均	4.779	2.963	126.916	-
丙	大正7年	6.100	3.904	152.256	(+) 17.927	
	大正8年	3.893	2.573	129.679	(+) 8.883	
	平均	4.997	3.239	140.968	(+) 13.155	
	大正7年	5.500	3.465	133.749	-	
	大正8年	3.823	2.430	120.771	-	
	平均	-	-	-	-	
其二 試驗	甲	大正7年	5.900	3.655	143.276	(+) 22.643
		大正8年	4.635	2.730	135.681	(+) 1.776
		平均	5.268	3.193	139.479	(+) 12.209
		大正7年	5.400	3.152	119.776	-
		大正8年	4.365	2.715	133.035	-
		平均	4.883	2.934	126.406	-
	乙	大正7年	5.820	3.592	140.088	(+) .098
		大正8年	4.568	2.675	131.075	(-) 3.115
		平均	5.194	3.134	135.582	(-) 1.509
		大正7年	5.600	3.608	139.990	-
		大正8年	4.208	2.700	134.190	-
		平均	4.904	3.154	137.090	-
甲	大正7年	5.770	3.398	132.182	-	
	大正8年	4.560	2.895	141.855	-	
	平均	5.165	3.147	137.019	-	
	大正7年	5.800	3.413	133.107	(+) .925	
	大正8年	4.260	2.700	132.300	(-) 9.555	
	平均	5.030	3.057	132.704	(-) 8.315	

6月9日	1					1						1		
6月10日			1					1						
6月11日														
合計	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	

同上

區別	7 號			8 號			9 號			10 號			合計					
	午前	正午	午後	午前	正午	午後	午前	正午	午後	午前	正午	午後	午前	正午	午後	計		
1 區	6月4日	3			5			2			3			29			29	
	6月5日				2			2			1	1	1	6	1	2	9	
	6月6日	2				1		1				2	2	7	13	3	23	
	6月7日				1			1						4	2		6	
	6月8日		1	1	1			1	1	1				3	3	6	12	
	6月9日	1		1				1						4	4	3	11	
	6月10日	1															2	
	6月11日														1		1	2
	合計	7	1	2	9	1		8	1	1	4	3	3	59	25	16	100	
	2 區	6月4日																
		6月5日												1	1	1	3	
6月6日					1								6	5		11		
6月7日			1					1							1	1	2	
6月8日								1					1	3	2	1	6	
6月9日		1												1	1	1	3	
6月10日															1	1	2	
6月11日			1															
合計	1	1	1	1			1	2	1	1	1	1	11	11	5	27		

成績概要 以上ノ成績ヲ見ルニ風乾状態ニアル薬内ニ何等ノ濕氣ヲ與ヘズ
 放置(室内)スルトキハ大抵8日—11日ニテ死スルモノ、如シ、之レニ反シ濕
 氣ヲ適當ニ與フルトキハ11日ニシテ其27.0%ノ死虫ヲ出スニ過ギズ、即チ
 蛹化時期ニ當リテハ適當ノ濕氣ヲ有スルニ非ラザレバ充分ニ生存シ得ザル
 モノ、如シ

寄生蜂ニ關スル試験

1. 菜青虫寄生蜂試験 (新設)

本試験ハ菜青虫(Pieris rapae)寄生蜂ニ關スル寄生現象ニツキテ知ラン
 トスルモノニシテ本年度ニ於テハ其ノ採集及接種並ニ飼育試験ヲ施行セリ
 本年度ニ於テ觀察セル處次ノ如シ

大正7年10月26日寄生蜂繭ヲ採集シ之レヲ飼育瓶内ニ容レ置ケルニ其マ
 、越冬シ大正8年4月5日午前羽化シ多數ノ成虫出デタリ、此ノ當時ニ於ケル
 菜青虫ハ已ニ幼虫現出セリ、今菜青虫ノ飼育状況ヲ示セバ次ノ如シ

大正7年11月26日蛹化セル菜青虫ヲ採集

大正8年4月9日午前 羽化

4月16日午前 産卵ヲ開始ス

4月26日午前 孵化ヲ始ム } 4月25日午前寄生蜂羽化

5月25日午後 蛹化ヲ始ム

6月7日午前 羽化ヲ始ム

6月9日午前 産卵ヲ始ム

尙之ノ菜青虫幼虫及寄生蜂ヲ用ヒ接種試験ヲ行ヒシガ目的ヲ達セザル中
 兩者共死滅セリ、而シテ之ノ間ニ觀察セル處次ノ如シ

10月26日菜青虫(幼虫三齡)1頭ニツキ寄生蜂4頭(雌2雄2)放飼セリ、内雌
 1頭ハ2日目ニ死セリ、雄ハ3日目ニ於テ2頭死シ1頭ノ雌ハ生存ス

之ノ1雌ハ幼虫ノ体ヲ歩行スルコト度々ナルモ産卵セントスルガ如キ狀
 態ヲ示サズ、30日ニ至リ此ノ雌ハ遂ニ午前11時10分ニ翅ヲ立テ、幼虫体
 上ニ静止シツ、尾部ヲ以テ体上ヲ幾回カ探ルガ如キ動作ヲナシ遂ニ幼虫
 ノ第9節ノ後側背面ニ尾部ヲ定着セリ而シテ約30秒間静止ス、産卵セルモ
 ノ、如シ、後尾部ヲ少シ体面ヨリ離シ後脚ヲ以テ体ノ腹側ヲ磨シ且盛
 ニ觸角ヲ動カシ欣喜セルモノ、如シ、午後3時20分ニ至リ甚シク衰弱シテ
 歩行不充分トナリ試験管ノ側壁ヲ昇ルコト能ハザルニ至リ、多ク飛翔ス
 ルコトナク殆ンド静止セルノ状態トナル

斯ノ如クシテ11月4日マデ生存シ死セリ

此ノ寄生蜂ハ卵ヨリ出シタルモノニ非ザル故ニ其ノ生存期間不明ニシテ
 又捕獲前ニ於ケル産卵ノ有無モ判然セザルガ故ニ之レ等ニ就テハ更ニ試
 験ヲ行ハントス

又別ニ10月26日蛹繭ヲ採集シ飼育セルニ10月28日羽化シ其マ、食物ヲ與
 ヘズ放置セルニ11月7日ニ至リ全部死セリ、之レヲ以テ見ルニ成虫ヲ絶食
 セシムルトキハ10日位ニテ死スルモノ、如シ

2. 菜青虫(螟蛉)ノ自然斃死數試驗 (新設)

本試驗ハ菜青虫(Pieris rapae)ガ寄生蜂及病菌ノ寄生ニヨリテ自然ニ於テ幾何ノ斃死數ヲ生ズルヤヲ知ラントスルモノナリ

試驗方法

幼虫ヲ採集シ食葉ト共ニ飼育瓶中ニ投ジ自然斃死數ヲ檢ス

成績

(1) 第1回飼育 (10月27日放)

番 號	幼 虫 數	寄生蜂ニヨル幼虫死數	蛹 化 數	寄生蜂ニヨル死歩合(%)
1	22	4	8	18.1

(2) 第2回飼育 (11月14日放)

番 號	幼虫數	寄生蜂ニヨル幼虫死數	寄生菌ニヨル死數		寄生蜂ニヨル死歩合(%)	寄生菌ニヨル死歩合(%)			全死虫歩合(%)
			幼虫	蛹		幼虫	蛹	計	
1	35	3	15	3	8.6	42.8	8.6	51.4	60.0
2	46	1	18	4	2.2	39.1	8.7	47.8	50.0
3	17	—	6	—	—	35.2	—	35.2	35.2
計	98	4	39	7	8.8	39.8	7.1	46.9	55.7

(3) 第3回飼育 (11月19日放)

番 號	幼虫數	寄生蜂ニヨル幼虫死數	寄生菌ニヨル死數		寄生蜂ニヨル死歩合(%)	寄生菌ニヨル死歩合(%)			全死虫歩合(%)
			幼虫	蛹		幼虫	蛹	計	
1	16	1	2	2	6.3	12.6	12.6	25.2	31.5
2	10	1	7	—	10.0	70.0	—	70.0	80.0
3	11	—	5	—	—	45.5	—	45.5	45.5
計	37	2	14	2	5.4	37.8	5.4	43.2	48.6

(4) 3回合計死虫及歩合

虫 數	寄生蜂ニヨル死幼虫數	寄生菌ニヨル死數		寄生蜂ニヨル死歩合(%)	寄生菌ニヨル死歩合(%)			全死虫歩合(%)
		幼虫	蛹		幼虫	蛹	計	
157	10	53	9	6.4	33.7	5.7	39.4	45.8

成績概要 以上ノ成績ニヨレバ本年ニ於テハ次ノ事實ヲ知り得ベシ

- (1) 寄生蜂ニヨル死虫數ハ後ニ至ルニ從ヒテ漸減ス
- (2) 寄生菌ニヨル死虫數ハ寄生蜂ニヨルモノヨリモ多シ

- (3) 寄生蜂ニヨル死虫ハ全部幼虫期ニ於テ斃死スルモ寄生菌ニヨルモノハ蛹化後ニ於テ死スルモノアリ、然レ共其死虫數ハ幼虫期ノモノ多シ
- (4) 10月下旬以後ニ在リテハ寄生蜂ノ爲メニハ1割内外、寄生菌ノ爲メニハ4割内外ノ死虫アリ
- (5) 本年度ニ於テハ菜青虫ハ自然ニ10月下旬以後ニ於テ5割内外ノ死虫アリ

藥劑ニ關スル試驗

1. 亞砒酸曹達液使用試驗 (繼續第2年)

本試驗ハ亞砒酸曹達液ノ無害有効ナル使用法ヲ知ラントスルニアリテ梨樹7年生樹2本ヲ以テ1區トス

試驗區別及方法

區 別	試 驗 別	亞砒酸曹達分量	撒 布 時 期
1	3斗式石灰ホルド-液加用	5 勺	6月上旬ヨリ月毎ニ藥害ヲ呈スルニ至ルマテ使用ス
2	全 上	7 勺	全 上
3	全 上	1 合	全 上
4	4斗式石灰ホルド-液加用	5 勺	全 上
5	全 上	7 勺	全 上
6	全 上	1 合	全 上
7	標 準 無 撒 布	—	—

備考 5月10日ニ藥劑撒布ヲ行ヒ5月14日ニ調査ヲ行フ

區 別	藥 害	附 着 力
1	甲 ナ シ	古葉ニハヨク附着セルモ嫩葉ニハ只僅ニ附着セルノミ
	乙 ナ シ	古葉ニハヨク附着セルモ嫩葉ニハ附着セズ
2	甲 少 シ	古葉ニハヨク附着セルモ嫩葉ニハ只僅カニ附着ス
	乙 稍 多 シ	全 上
3	甲 多シ甚ダシキモノハ枯葉トナル	全 上
	乙 稍 ヲ多シ	全 上
4	甲 極 少 シ	全 上
	乙 稍 ヲ少シ	全 上

5	甲	稍々多シ	古葉ニハヨク附着セルモ嫩葉ニハ只僅ニ附着ス	全	上
	乙	多シ		全	上
6	甲	稍多シ	全	全	上
	乙	多シ		全	上
7	甲	—	—	—	—
	乙	—		—	—

成績概要 各種害虫驅除劑トシテ亞砒酸曹達ヲ使用スル場合ニハ3斗式石灰ボルドー液3斗ニツキ5勺混用セルモノ無害且附着力良好ニシテ最良ノ成績ヲ示セドモ同液ニ1合ヲ加用セルモノハ枯葉ヲ生ズルコト甚シク最モ劣レル成績ヲ示ス次デ4斗式石灰ボルドー液4斗ニ亞砒酸曹達液5勺混用セルモノ良好ニシテ同液ニ1合ヲ混用セルモノハ亦害多キヲ示シ前年ト全ク同様ノ成績ヲ示メセリ、故ニ之レヲ通覽スルニ梨樹ノ爲メニハ3-4斗ノ水量ニ對シテハ5勺ノ原液ヲ加用スルヲ以テ最モ安全トスルモノ、如キモ尙害虫ニ對スル効力ニ關シテハ未知ノ成績多シ、從テ次年度ヨリハ專ラ之レニ關シ試驗ヲ行ハントス

2. ナフタリンノ發芽及生育ニ及ボス影響試驗 (續前4年)

本試驗ハナフタリンヲ土壤ニ施ス場合作物ノ發芽及生育ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリ

試驗區別及方法

區別	試驗別	施用方法
1	無施用區	—
2	1坪20匁施用	基肥施用ノ際土壤ト混合ス
3	1坪15匁施用	全 上
4	1坪10匁施用	全 上
5	1坪5匁施用	全 上
6	1坪3匁施用	全 上
7	1坪2匁施用	全 上

4. 秋蒔大麥ニ於ケル試驗成績

(1) 作業

供種品種今朝白種, 10月25日播種, 11月1日發芽開始ト共ニ發芽歩合, 生

育狀況等ニ關シ調査ヲ施行セリ, 標準區ハ2區設置セリ, 從テ其ノ成績ハ2區平均トス

(2) 發芽歩合

區別	1區	2區	3區	4區	5區	6區	7區
發芽狀況	整	不整	稍不整	稍整	稍整	稍不整	整
全上日數ノ遲速	—	1日遲シ	半日遲シ	—	—	—	—
11月3日發芽歩合%	81.5	76.0	78.0	83.0	84.0	79.0	84.0
11月13日全上	86.0	85.0	89.0	87.0	88.0	86.0	93.0

(3) 生育狀況

區別	1區	2區	3區	4區	5區	6區	7區
11月6日草丈(寸)	1.689	1.948	1.663	1.385	1.110	1.633	1.585
11月13日全上	3.032	3.045	3.030	3.085	3.065	3.040	3.180

□. 陸稻ニ於ケル試驗成績

(1) 作業

供試種江曾島糯, 5月16日播種, 5月22日ヨリ發芽開始

(2) 發芽及生育狀況

區別	1區	2區	3區	4區	5區	6區	7區
發芽狀況	最良	最不良	不良	不良	稍良	良	良
全上日數ノ遲速	—	1日遲シ	1日遲シ	半日遲シ	—	—	—
發芽歩合(%)	82.0	54.0	61.5	73.0	78.0	80.5	85.0
5月30日草丈(寸)	2.24	1.11	2.04	2.32	2.60	3.10	3.88
6月30日全上	24.80	22.10	23.84	24.15	25.30	26.51	26.20
7月30日全上	40.10	38.21	38.50	38.04	38.81	39.80	40.24
8月30日全上	36.17	29.05	30.66	33.60	33.99	34.35	34.76
穗長(寸)	7.59	6.56	6.62	6.78	6.69	7.24	7.27

八. 累年發芽歩合

區別	無施用	1坪1匁	3匁	5匁	10匁	15匁	20匁	25匁	30匁
大正6年	87.0	—	—	35.0	17.0	14.0	3.0	—	1.0
大正7年(甲)	74.0	63.0	61.0	45.0	29.0	60.0	48.0	—	—

陸 稻	大正7年(乙)	57.0	57.5	46.5	57.5	34.5	53.5	40.5	-	-
	大正8年	82.0	85.0	80.5	78.0	73.0	61.5	54.0	-	-
	平均	75.0	68.5	62.7	53.9	38.4	47.3	36.4	-	-
	秋蒔大正8年	86.0	93.0	86.0	89.0	87.0	89.0	85.0	-	-

二. 生育状況

區 別	無施用	1 匁	3 匁	5 匁	10匁	15匁	20匁	
5月下旬 草丈(寸)	大正7年	2.30	2.60	3.00	2.50	2.50	2.00	1.50
	大正8年	2.24	2.88	3.10	2.60	2.32	2.04	1.11
	平均	2.27	2.74	3.05	2.55	2.41	2.02	1.31
	大正7年	26.00	27.50	27.90	27.00	26.20	26.00	24.70
6月下旬 全 上	大正8年	24.80	26.20	26.51	25.30	24.15	22.84	23.10
	平均	25.40	26.85	27.21	26.65	25.18	24.42	23.40
	大正7年	32.50	32.50	34.00	33.00	32.00	33.50	34.50
7月下旬 全 上	大正8年	40.10	40.24	39.80	38.81	38.04	38.50	38.21
	平均	36.30	36.37	36.90	35.41	35.02	36.00	36.36
	大正7年	37.80	38.80	40.20	37.20	38.40	37.40	38.00
8月下旬 全 上	大正8年	36.17	34.76	34.35	33.99	33.60	30.66	29.05
	平均	36.99	36.78	37.28	35.60	36.00	34.03	33.53

成績概要 既往試験ノ成績ニヨレバ麥及陸稻ニ在リテハナフタリンノ施用量ヲ増スニ從ヒ發芽及生育ニ悪影響ヲ與フルヲ知ル、然レ共其ノ施用量ノ適當ナル場合ニハ反ツテ其ノ生育ヲ促進スル傾向ヲ有シ麥及陸稻ニ於テハ草丈及収量ヲ増加スルモノ、如シ、2ヶ年平均ニテ發芽ハ秋蒔麥ノ場合ニハ1坪15匁ニ於テ其ノ發芽ヲ害セラル、モ陸稻ニ在リテハ5匁ニ於テ已ニ著シク其ノ發芽ヲ害セラル、モノ、如シ、尙生育ニ及ボス影響ニ就テ陸稻ニテハ10匁ニ於テハ未ダ著シキ差異ヲ認メズト雖モ15匁以上施用ノ場合ニハ生育(伸長)ヲ阻害セラル、モノ、如シ

3. 馬醉木利用ニ關スル試験 (繼續第4年)

前年ニ繼續シ馬醉木乾葉粉末ノ殺虫力ヲ驗セントスルモノナリ

試験區別及方法

區別	試験別	方法
1	馬醉木粉末撒布區	馬醉木粉末ヲ撒布ス

2	除虫菊粉末撒布區	除虫菊粉末ヲ撒布ス
3	除虫菊木灰合劑撒布區	除虫菊粉1容木灰5容ヲ混シ24時間密閉シタル粉劑ヲ撒布ス
4	馬醉木木灰合劑撒布區	馬醉木粉1容木灰5容ヲ混シ24時間密閉セル粉劑ヲ撒布ス
5	無撒布區	-

1. 菜青虫(紋白蝶幼虫)ニ對スル試験

本試験ハ虫体ニ粉末ヲ撒布附着セシメタルモノヲ白菜ト共ニシャーレ一内ニ飼育供試セリ

(1) 第一回試験成績 (10月30日施行各區5頭宛)

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區	5 區
5時間後死虫	-	-	2	-	-
19時間後全上	1	1	2	1	-
24時間後全上	1	2	1	1	-
5日後全上	1	2	-	2	1
死虫數合計	3	5	5	4	1
生虫數	2	-	-	1	4
死虫歩合	60.0	100.0	100.0	80.0	20.0

(2) 第二回試験成績 (11月4日施行各區10頭宛)

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區	5 區
5時間後死虫數	-	-	2	-	-
19時間後全上	2	3	4	2	-
24時間後全上	2	4	2	3	-
5日後全上	2	3	2	2	1
死虫數合計	6	10	10	7	1
生虫數	4	-	-	3	9
死虫歩合	60.0	100.0	100.0	70.0	10.0

(3) 第三回試験成績 (11月9日施行各區10頭宛)

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區	5 區
5時間後死虫數	-	1	2	1	-
18時間後全上	2	3	4	2	-
24時間後全上	3	5	2	3	2

5日後死虫数	3	1	2	4	1
死虫数合計	8	10	10	10	3
生虫数	2	-	-	-	7
死虫歩合	80.0	100.0	100.0	100.0	30.0

□. 菜黒虫(燕青蜂幼虫)ニ對スル試験

本試験方法ハイト全ク同様ニ行ヘリ

(1) 第一回試験成績 (10月29日施行各區5頭宛)

區別	1區	2區	3區	4區	5區
5時間後死虫数	1	2	2	1	-
18時間後全上	1	1	2	1	1
24時間後全上	1	2	1	2	-
10日後全上	2	-	-	-	-
死虫合計	5	5	5	4	1
生虫数	-	-	-	1	4
死虫歩合	100.0	100.0	100.0	80.0	20.0

(2) 第二回試験成績 (10月30日施行各區10頭宛)

區別	1區	2區	3區	4區	5區
5時間後死虫数	-	1	1	-	-
19時間後全上	1	3	2	1	-
24時間後全上	4	5	4	3	-
15日後全上	5	1	3	6	-
死虫合計	9	10	10	10	10
生虫数	1	-	-	-	-
死虫歩合	90.0	100.0	100.0	100.0	-

ハ. 死虫歩合

區別	1區	2區	3區	4區	5區	
菜青虫	第1回試験	60.0	100.0	100.0	80.0	20.0
	第2回全上	60.0	100.0	100.0	70.0	10.0
	第3回全上	80.0	100.0	100.0	100.0	30.0
	平均	66.7	100.0	100.0	83.3	20.0

菜黒虫	第1回試験	100.0	100.0	100.0	80.0	20.0
	第2回全上	90.0	100.0	100.0	100.0	-
	平均	95.0	100.0	100.0	90.0	10.0

成績概要 以上ノ成績ニヨレバ馬酔木粉ノ効力ハ除虫菊粉ニ及バズト雖モ亦相當ノ殺虫力アルヲ知ル、菜ノ青虫ハ菜ノ黒虫ヨリ之レニ對シテ稍々抵抗カアルモノ、如シ、尙試験セントス

特殊研究成績

本年度ニ於テ特ニ調査シタル病虫害ノ種類及其他ノ事項次ノ如シ
猶本事項ニ就テハ他日詳細ナル研究報告ヲナサントス

1. 害虫ニ關スル研究

1. *Ancylolomia chrysographella* Koll. ツトガ
 2. *Salebra semirubella* Scop. アカマダラメイガ
 3. *Diasemia litterata* Scop. クロアヤヒメノメイガ
 4. *Hypsopygia regina* Btl. トビイロシマメイガ
 5. *Acidalia superior* Btl. キナミシロヒメシヤク
 6. *Perigea bigttula* Motsch. フタテンヒメヨトウ
 7. *Pyralis farinalis* L. カシノシマメイガ(米其他穀類ヲ害ス)
 8. *Endotriche hirayamae* Mats. ヒラヤマトガリメイガ
 9. *Pandemis heparana* Schiff. トビハマキ
 10. *Jachyptilia subsequella* Hb. サクラツマリコガ(桃ノ葉ヲ捲キ害ス)
 11. *Adoxophyes? privatana* Walk. クワヒメイトヒキハマキ
(落花生ノ葉ヲ捲キ加害ス)
 12. *Epagoge inconditana* Kenn. ホソフタスデハマキ
(萃樹ノ葉ヲ捲キ加害ス)
 13. *Cacoecia xylostearia* L. カクモンハマキ(萃樹ノ葉ヲ捲キ加害ス)
- 尙其他次ノ害虫ニ關シテ研究ヲ行ヘリ
- (1) 大豆ノ害虫類
 - (2) 各種蚜虫類
 - (3) 梨姫心喰虫及其他ニ關スル心喰虫類

- (4) 各種葉捲虫類
- (5) 主要食糧作物ノ害虫類
- (6) 其他ノ4種ノ個体研究

2. 新害虫ノ研究

(1) 5月15日北魚沼郡千田村ニ設置セル採種田苗代ニ1種ノ害虫發生セリトノ報アリ、調査セルニ

Crustacea(甲殻類) Arthrostraca(節甲類) Amphipoda(端脚類)ニ屬スルGammaridae(水蝨科)ノGammarus(水蝨又ハはねむし)ノ喰害ナルコトヲ知レリ、元來本虫ハ濕地又ハ淡水畔ニ産スル最モ普通ナル甲殻類ニシテ有機質食物ヲ攝取シ生活スルモノトス、然レ共未ダ本邦ニ於テ(悉ラク外國ニ於テモ)稻苗ヲ喰害スルノ事實ヲ聞カズ、蓋シ本縣ニ於テノ被害ヲ以テ記録トスベキモノナラン、本虫ニ就テハ續イテ研究セントスルモ參考ノタメ北魚沼郡農會農事試験場長野中久作氏ヨリ報告セラレタル被害状況ヲ次ニ抄録ス

5月2日播種ノ苗代ニシテ害虫ノタメ芽及根ヲ發芽ノ當初ヨリ7-8分ニ生長セルモノヲ喰害セラル、當初被害ノモノハ全然腐敗セルモノアリ又多少伸長セルモノアルモ伸長後ノ被害苗ハ横ニ倒レ伸長ヲ休止ス、之レガ爲メ約2反歩分ノ苗全滅ニ瀕ス、且又被害ノ爲メ5-6合蒔トセルモノハ1-2合位ノ薄播トナリ次第ニ厚播ノ部分ニ向テ被害ヲ移動セラレツ、アリ、排水スレバ本虫ハ多ク死滅シ灌水スレバ水ト共ニ流入シ來ル、排水セル苗代ニ在リテハ床面ノ凹所ニ多數集合ス

(2) 佐渡郡内處々ニ於テ稻苗ニ集合シテ之レヲ害スル一種ノ貝ヲ發見セリ、檢スルニ恐ラク

Cyprididae(チブリデー科)ニ屬スルモノナルベシ

尙研究ヲ續ケリ

(3) 茄子ヲ害スル一種ノ蟻ヲ發見シ目下研究中ニ屬ス

3. 寄生蜂ニ關スル研究

寄生蜂ニ關シ目下研究中ノモノ次ノ如シ

- (1) 梨葉捲虫類ニ寄生スルモノ 2種
- (2) クサカゲラウニ寄生スルモノ 1種

- (3) 菜青虫ニ寄生スルモノ 1種
 - (4) 豌豆潜蠅ニ寄生スルモノ 2種
 - (5) グミ葉捲虫ニ寄生スルモノ 1種
 - (6) 牛蒡青虫(假稱)ニ寄生スルモノ 1種
 - (7) 杞柳芽虫ニ寄生スルモノ 3種
 - (8) 桃葉捲虫ニ寄生スルモノ 2種
 - (9) アランコケムシニ寄生スルモノ 1種
 - (10) 萃樹葉捲虫ニ寄生スルモノ 1種
- 合 計 15種

ニツキ目下研究中ニ屬ス

4. 病菌ニ關スル研究

病害ニツキ目下研究セルモノ次ノ如シ

- (1) 十字科蔬菜類ニ寄生スル腐敗病菌
- (2) 禾本科植物ニ寄生シ葉切性病狀ヲ呈スル病菌
- (3) 土壤及有機質肥料中ニ存在シ腐敗性病狀ヲ呈スル病菌
- (4) 稻熱病
- (5) 稻大粒白絹病
- (6) 菌核病菌類
- (7) 瘤腫病ヲ起スベキ病菌
- (8) 大豆ニ發生スル病害類

5. 野鼠及野鼠チブス菌研究

本研究ハ本縣産野鼠ノ種類及之レニ寄生セシメ驅除ノ効果ヲ擧ゲントスルチブス菌ニツキ研究スルモノニシテ野鼠ノ種類ハ各地ニ於テ捕獲スルノ方法ニヨリ、チブス菌ハ本省農事試験場及新潟醫學專門學校川村醫學博士及其他ヨリ分譲ヲ受ケ供試セリ

1. 野鼠ノ種類調査

大正7年10月古志郡黒條村恙虫有毒地ニ於テ全村高橋彌吉氏ニ捕獲ヲ依頼シ10月10日得タル標本ヲ東京帝國大學理學部動物學教室ニ送付シ鑑定ヲ請ヒタルニ同月30日右野鼠ハ本邦内地到ル處ニ産スル

Microtus montebelli Milne-Edwards. ハタネヅミ

ナル旨回答アリタリ、當長岡地方ニ最モ普通ナル種類モ亦本種ナリ、尙本調査ニツキテハ繼續施行セントス

ロ. チアス菌接種試験

供試野鼠ハ上記古志郡黒條村産 Microtus montebelli Milne-Edwards(ハタネズミ)ヲ以テシ野鼠チアス菌ハ本省農事試験場ヨリ分與セラレタルモノ3種及古志郡黒條村ニ恙虫研究所ヲ開催セラル、向山氏ヨリ分與セラレタルモノ1種ヲ用ヒタリ

チアス菌添食前ハ7日以上1頭宛亞丹製飼育器ニ飼育シ健全ナリト認メタルモノヲ2日間絶食セシメタル後ニチアス菌ヲ添食セリ

第一回試験

チアス菌ノ種類	チアス菌圃子投入月日	斃死月日	日数
ダニス氏チアス菌	10月30日	1 區 11月8日死	7
		2 區 11月7日斃死	8
リヨフレル氏チアス菌	10月30日	1 區 11月7日斃死	7
		2 區 11月8日斃死	8
メレシユコウスキ氏チアス菌	10月30日	1 區 11月8日斃死	8
		2 區 11月8日斃死	8
向山氏チアス菌	10月30日	1 區 斃死セズ	—
		2 區 全 上	—

第二回試験

本試験ハ前記野鼠チアス菌ニヨリ斃死セル野鼠ヲ飼育器中ニ投入シ健全ト認メタル野鼠1頭宛ヲ容レ2區トシ第1區ハ只斃死鼠ノミ第2區ハ斃死鼠ト糲ト共ニ與ヘタリ共喰セシメ其ノ斃死スルヤ否ヤヲ檢ス

斃死鼠	斃鼠投入月日	斃死月日	
		第1區	第2區
ダニス氏菌斃鼠	11月8日	共喰セズ11月10日死	11月13日
リヨフレル氏菌斃鼠	11月8日	全 上	11月13日
メレシユコウスキ氏菌斃鼠	11月8日	全 上	11月13日
向山氏菌新添食	11月8日	死セズ	死セズ

第三回試験

本回ハ第3回試験第2區斃死鼠ヲ更ニ2區ニ分チ共喰セシメタリ

菌ノ種類	斃鼠投入月日	斃死月日	
		第1區	第2區
ダニス氏菌斃鼠	11月13日	11月19日	11月20日
リヨフレル氏菌斃鼠	11月13日	11月21日	11月19日
メレシユコウスキ氏菌斃鼠	11月13日	11月20日	11月21日

以上ノ斃死鼠ヨリ各々チアス菌ヲ所定ノ方法ニ從ヒ分離シ純粹培養ヲ以テ培養繼續ノ上配布用ニ供セリ

以上ノ試験中觀察セル處次ノ如シ

- (1) チアス菌ハ添食ヨリ6—8日間ニシテハタネズミヲ斃死セシム
- (2) 第一回添食斃鼠ヲ共喰セシムルトキニハ本試験ニ於テセル3回ノ範圍内ニテハ其ノ野鼠体ヲ通過スルニ從ヒ(即チ動物体通過回数ヲ加フルニ從ヒ)其ノ死ニ去ル日數ヲ短縮ス、即チチアス菌ハ其ノ毒力ヲ増加スルモノト認メ得ベシ
- (3) 室内ニ於テ共喰ヲ行ハシムル場合ニハ只斃死鼠ノミヲ與ヘタル時ハ好シク之レヲ食セザルモノ、如ク、他ノ穀類ヲ同時ニ與ヘタル場合ニ好シク共喰ヲ行フモノ、如シ、之レ本年度及ビ前年度ニ於テ施行セル共喰試験ニヨリテ知ラル(其ノ試験回数少キモ)其ノ理由トスル處ハ穀類ヲ食スルノミニテ水分多キモノヲ與ヘザル場合ニ初メテ斃鼠ヲ喰スルニ非ザルナキカ、故ニ只斃鼠ノミヲ與ヘタル場合ニハ之レヲ食スルニ至ル迄ニ餓死スルモノ、如シ
- (4) ハタネズミハ飼育器ニ容レ3日間食物ヲ與ヘザルトキハ多ク餓死スルモノ、如ク從來ノ飼育ニヨルニ其ノ絶食4日ニ亘ル場合ニハ50%—70%ノ餓死數ヲ示ス
- (5) 野鼠チアス菌ヲ添食セシメタル斃鼠ヲ連續シテ共喰セシムル場合チアス菌ノ効力ハ何回迄繼續スルヤ、即チ其ノ毒力ハ常ニ増進ノ傾向ヲ示スヤ、又只持續スルニ過ギザルヤ、將又遂ニ此ノ毒力ヲ減退スルモノナルヤニツキテハ重ネテ研究スル處アラントス

附記 之ニ記載セルハタネズミハ又モグラネズミトモ稱シ學名ニハ

Arvicola montebelli Milne-Edwards, A hatanezumi Sasaki, Microtus montebelli Thomas, Micromys montebelli Namie, 等ノ異名アリ特徴ハ耳短ク体毛ヨリ以外ニ突出セズ、背部ノ毛色ハ黃黑褐色ニ近ク幾分暗色ヲ呈シ、赤味ヲ帶ビズ、腹部ハ全部ノ毛殆ンド灰色ヲナシ

尖端ハ白色ヲ加味セリ、腹背毛色ノ境界不鮮明ナリ、毛ハ軟ニシテ刺毛ヲ欠キ冬毛ニ於テ背部ノ毛長約13耗、夏毛約8耗ナリ、四肢ノ外面ハ背部ノ引キ續キニシテ内面ハ腹部ト一致ス、掌蹠トモ可ナリノ毛ニテ被ハル、手及足背ハ帶黃白色ヲナス、掌蹠及蹠蹠トモ5個アリ、尾ハ体長ノ約3分ノ1強ニシテ毛ハ可ナリ多ク其ノ鱗環不分明ナリ、上面ハ暗灰色下面ハ灰白色ニシテ其ノ境界不鮮明ナリ、頭蓋ハ一般ニ丸味ナク角張レリ、嘴ハ稍々短ク外形上突出著シカラズ。分類上 Muridae 科 Microtinae 亞科 Microtus 屬ニ屬ス

調 査 成 績

1. 二化螟虫發蛾調査

月 旬	發 蛾 數			備 考
	雌	雄	合計	
5 月 上 旬	—	—	—	第一回發蛾初日ハ5月20日
5 月 中 旬	—	1	1	
5 月 下 旬	19	43	62	
6 月 上 旬	34	77	111	6月6日最盛期
6 月 中 旬	45	81	126	
6 月 下 旬	12	17	29	
7 月 上 旬	4	3	7	第一回發蛾終日ハ7月5日
7 月 中 旬	—	—	—	
7 月 下 旬	—	—	—	
8 月 上 旬	2	13	19	第二回發蛾初日ハ8月4日
8 月 中 旬	7	8	15	第二回發蛾終日ハ8月19日
8 月 下 旬	—	—	—	
合 計	127	243	370	
第1回發蛾數	114	222	336	
第2回發蛾數	13	21	34	

此レヲ昨年及一昨年ト比較スレバ次表ノ如シ

年 度	第 1 回 發 蛾				第 2 回 發 蛾			
	初 日	終 日	落 下 數	發 蛾 日 數	初 日	終 日	落 下 數	發 蛾 日 數
明治33年ヨリ大正8年度ニ至ル平均	—	—	578.5	58.3	—	—	254.3	31.3

6 年 度	5.15	7.5	522.0	51.0	7.31	8.28	105.0	29.0
7 年 度	5.18	7.10	895.0	54.0	7.31	8.24	105.0	25.0
8 年 度	5.16	7.14	494.0	60.0	8.1	8.19	202.0	19.0
其 差	昨年ヨリ2日早ク 一昨年ヨリ1日晚シ	昨年ヨリ4日晚ク 一昨年ヨリ9日晚シ	401頭少ク 一昨年ヨリ28頭少ク 平均ヨリ82.5頭少シ	6日多ク 一昨年ヨリ9日多ク 平均ヨリ1.3日多シ	昨年ヨリ1日遅ク 一昨年ヨリ9日全上	昨年ヨリ5日早ク 一昨年ヨリ9日晚シ	昨年ヨリ97頭多ク 一昨年ヨリ全上平均ヨリ52.3頭少シ	昨年ヨリ6日少ク 一昨年ヨリ10日少ク 平均ヨリ12.3日少シ

2. 稻肥料ト二化螟蟲被害數調査 (繼續第4年)

病害ニ關スル試験第一田ニ於テ調査ス

區 別	大正5年	大正6年	大正7年	3ヶ年平均	大正8年	4ヶ年平均
標準肥料區	376	385	288	316.3	132	295.0
窒素2倍區	414	562	274	416.7	222	368.0
窒素3倍區	669	454	583	568.7	315	505.2
磷酸2倍區	480	530	536	515.3	103	412.2
磷酸3倍區	382	391	776	516.3	64	403.2
加里2倍區	422	347	472	413.7	56	324.2
加里3倍區	362	405	305	358.0	44	279.0
石灰2倍區	642	417	775	611.3	38	468.0
石灰3倍區	502	572	689	587.7	70	458.2
石灰4倍區	576	609	563	582.7	128	469.0
無肥料區	155	179	303	212.3	29	166.5

成績概要 本年度ニ於ケル被害ノ狀況ヲ前3ヶ年平均ニ比較スルニ相一致スルノ點アルヲ認ムベシ即チ窒素2倍、3倍トナルニ從ヒ被害最モ大ニシテコレニヨツテ是ヲ見レバ軟弱ノ生育ヲ遂ゲタルモノニハ被害多キヲ知ルベシ之ニ反シ磷酸及加里ハ其ノ施用量ヲ増スニ從ヒ、被害ヲ減ズルヲ見ルベシコレニヨリ螟虫モ窒素質肥料ノ増加ニヨリ其被害ヲ大ナラシムルト云フコトヲ知ルベシ、次ニ注意スベキハ石灰ノ4倍區ガ前3ヶ年平均並ニ本年度ヲ通ジ被害ノ大ナルニアリトス

3. 茄品種ト青枯病(立枯病)發生數調査 (園藝部試験地)

9月7日調査成績

品 種 名	中山 山茄子	紫蒂 茄子	行徳 茄子	民田 茄子	久保田 茄子	栗田 茄子	早生 細子成 成茄子	早生 干成 成茄子	改夏 巾着 茄子	折 茄子	戸 茄子
全 株 数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
枯 死 株 数	1	3	—	—	—	—	1	—	—	—	9
枯 死 歩 合	5.6	16.7	—	—	—	—	5.6	—	—	—	50.0

4. 茄硫黄華施用量と青枯病
(立枯病)發生數調査 (園藝部試験地)

9月7日調査成績 (品種中生山茄)

施 用 量	無加用	200匁	300匁	450匁	600匁	750匁	900匁	1050匁
全 株 数	27	27	27	27	27	27	27	27
枯 死 数	14	26	25	23	22	20	23	13
枯 死 歩 合	51.8	95.9	92.5	85.1	81.4	74.0	85.1	48.1

5. 桃品種と縮葉病ノ關係調査

桃品種と縮葉病との關係ヲ調査ス、方法ハ各樹枝ニ存スル芽數(開葉セル
同一個所ノ葉簇ヲ1芽ト見做ス)ヲ數ヘ此ノ無病及罹病數ヲ以テ歩合ヲ求メ
タリ從ツテ1芽中1葉ニテモ罹病セルモノアルトキハ之レハ病芽ト見做ス、
5月6日調査セリ

枝 番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	發病 歩合	
魁	全芽數	14	10	4	—	—	—	—	—	—	28	—	
	病芽數	3	2	—	—	—	—	—	—	—	5	17.9	
アムステル シユーン	全	7	13	7	5	12	13	8	6	8	89	—	
	全	1	—	—	1	5	7	3	1	2	25	28.1	
離核水蜜	全	6	14	4	10	7	11	7	14	8	9	—	
	全	2	4	2	7	1	9	5	8	6	4	—	
全	全	7	6	8	—	—	—	—	—	—	111	—	
	全	4	4	5	—	—	—	—	—	—	61	54.9	
ミユア	全	14	8	7	9	4	8	17	7	7	10	91	—
	全	2	1	4	4	2	3	2	2	—	1	21	23.1
ロベール	全	18	8	11	8	11	7	5	9	9	18	104	—
	全	6	2	3	4	4	2	1	2	3	5	32	30.7

エルバーター	全芽數	10	13	12	10	5	10	10	10	9	7	96	—
	病芽數	4	7	11	3	3	7	7	8	7	5	61	63.5
カールマン	全	5	12	4	8	4	4	7	9	8	8	69	—
	全	5	7	2	5	3	2	7	6	6	6	59	85.5
上海水蜜	全	13	12	10	8	7	13	8	7	4	12	94	—
	全	5	2	4	3	6	6	5	7	2	5	45	47.8
全	全	12	13	11	12	11	12	10	10	4	12	107	—
	全	6	7	4	5	9	10	6	4	4	8	63	58.8
土用水蜜	全	13	11	15	11	10	15	9	9	10	11	114	—
	全	12	9	10	7	9	13	8	8	9	11	96	84.2
アーヴィック ロフォード	全	7	9	8	9	7	10	6	6	7	4	73	—
	全	4	4	4	3	2	3	3	1	1	1	26	35.6
フォスター	全	9	11	11	5	7	11	12	8	8	12	94	—
	全	3	4	5	2	2	3	5	2	3	2	31	32.9
カールマン	全	4	5	8	8	4	7	8	10	10	10	74	—
	全	3	5	7	7	3	6	3	4	7	6	51	68.9

依 托 試 験

1. 梨姫心喰虫防除試験 (繼續第3年)

目 的 本試験ハ梨姫心喰虫ノ被害ヲ防除セントスルニアリ
位 置 北蒲原郡木崎村野俣匡孜氏ニ依托
方 法 各區梨樹早生赤種2本ヲ用ヒ次ノ區別ニヨル

區 別	方 法	撒布回 數	撒 布 時 期
1	{ 3斗5升式石灰ボルドウ液3斗5升ニ亞硫酸曹達液1 合ヲ加用撒布	2	第一回果ノ小豆大
2	全 上	3	第二回果ノ大豆大
3	全 上	4	第三回第二回10日後
4	{ 無撒布(標準)(畠桑病豫防ノタメ過石灰ボルドウ 液3回撒布ス	—	第四回袋掛前

成 績

(1) 生育, 病虫害發生其他ノ狀況

本年ノ開花初期ハ4月27日, 盛期4月28—29日, 終期5月4日ニシテ昨年ニ比
シ盛期及終期ハ甚ダシク早カリキ、梨果ノ出來ハ頗ブル上出來ナリシモ虫
害殊ニ方言そこ虫ワタカヒガラモドキノ發生多ク然モ大果ニ其害甚ダシク

又花虫フタクロスチナミシヤクノ發生モ亦甚ダシ本虫ハ比較的風當リ弱キ處ニ多キヲ見ル。4月24日, 5月12日, 7月23日ノ調査ニヨレバ其ノ害甚大ナルヲ見タリ, 8月下旬ニ至リ壁蝨ノ發生多ク其ノ被害大ナリ, 又心喰虫ハ一般ニ發生大ニシテ木崎村ニ於テ少クトモ5-6割甚シキニ至リテハ7-8割ノ害ヲ被ムリタルモノ少ナカラズ, 此ノ試験區ニアリテハ被害果ノ7割以上ハ袋ノ破レタル大果ニシテ心喰虫ガ移動ノ結果破袋後之ノ害ヲ逞クスル點ハ本虫豫防上最モ注目スベキモノトス

又藥害ハ一般ニ亞砒酸曹達液ニ於テ甚シク撒布後10-20日甚シキハ30日後ニ於テ葉面ニ黒變セル部分ヲ現ハシ且枯死スルモノ少數アリ, 又一般使用者ノ説ヲ聞クニ初秋ニ至レバ落葉多ク無撒布樹ヨリハ約15日位モ早ク落葉スト稱ス, 然レ共此ノ事實ハ各種ノ狀況ニヨリ一様ナラザルベシ, 今左ニ本年度ニ測定セル果ノ大サ及重量ヲ參考ノタメ記スベシ

調査回数	調査月日	果ノ直径	果ノ重量
1	5月6日 (第一回藥劑撒布)	約 2 分	—
2	5月10日 (第二回全 上)	約 3 分	—
3	5月17日 (第三回全 上)	約 4 分	—
4	5月23日 (第四回全 上)	約 5 分	—
5	6月18日 (一番袋掛)	約 9分 - 1寸	—
6	7月30日 (二番袋掛)	約 1寸 7-8分	—
7	8月10日	約 2寸 1-2分	31 - 32 匁
8	8月20日	約 2寸 3-4分	38 - 40 匁
9	8月31日	約 2寸 5-6分	55 匁
10	9月10日	約 2寸 8分 3厘	65 匁
11	9月20日	約 3 寸	75 匁
12	9月30日	3 寸 6 厘	85 匁
13	10月10日	3寸 1分 5-6厘	93 - 95 匁
14	10月20日 (収果當時)	3 寸 3 分	110 匁

備考 標準果ト見做スベキモノ10個ニツキ大約ノ測定ヲ示ス

(2) 収獲被害果及其ノ歩合

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區
袋 掛 數	950	1135	1095	774
健 果 數	437	584	587	307

健 果 歩 合 (%)	46.0	51.5	53.7	39.7	
被 害 果	中途落果數	287	299	290	287
	全上歩合(%)	30.2	26.3	26.4	37.0
	其 他	226	252	218	180
	合計數	513	551	508	467
被 害 歩 合 (%)	54.0	48.5	46.3	60.3	
被 害 果 中	販賣セルモノ	492	532	491	449
	有効歩合(%)	97.8	98.3	98.4	97.6
	販賣シ能ハザル果數	21	19	17	18

(3) 價 格

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區	備 考	
9月2日被害果價格	円 .087	円 .080	円 .067	円 .086	1貫匁 15錢 1個 重量 53匁 全上 17錢 全上 62匁 全上 20錢 全上 70匁 全上 22錢 全上 76匁 全上 30錢 全上 85匁 全上 30錢 全上 97匁	
9月12日全 上	.090	.120	.130	.100		
9月22日全 上	.220	.260	.310	.630		
10月1日全 上	.250	.240	.550	.550		
10月11日全 上	2.550	2.050	2.550	2.340		
10月22日全 上	9.900	11.570	9.200	7.650		
以 上 合 計	13.097	14.320	12.807	11.356		
健 果 價 格	23.400	31.200	31.400	16.500		全上 50錢 全上 107匁
總 計	36.497	45.520	44.207	27.856		—
増 収 價 格	8.641	17.664	16.351	—		—
収益歩合(第4區ヲトス)	1.310	1.634	1.587	1.000	—	

(4) 収支計算

區 別	1 區	2 區	3 區	4 區	
第1回藥劑撒布	藥 價	円 .085	円 .085	円 .085	円 .080
	人夫賃	.085	.085	.085	.085
第2回全 上	藥 價	.085	.085	.085	.080
	人夫賃	.085	.085	.085	.085
第3回全 上	藥 價	—	.095	.095	.088
	人夫賃	—	.100	.100	.100

第4回藥劑撒布	藥價	—	—	.100	—
	人夫賃	—	—	.117	—
合 計	藥價	.170	.265	.365	.248
	人夫賃	.170	.270	.387	.270
總 計		.340	.535	.752	.518
収 入 合 計		36.497	45.520	44.207	27.856
差 引		36.157	44.985	43.455	27.338
標準區トノ差		8.819	17.647	16.117	—
収益歩合(第4區ヲ1トス)		1.323	1.645	1.589	1.000

(5) 累年成績表

年度	試 驗 別	袋掛數	健全果數	被害果數	健全歩合	被害歩合
大正六年度	1. 4斗式小石灰ホルドウ液4斗ニ亞硫酸鉛(砒酸鉛)120匁混用4回撒布	658	612	46	93.0	7.0
	2. 全上4斗液ニ亞硫酸鉛(砒酸鉛)100匁混用4回撒布	645	594	51	92.2	7.8
	3. 4斗式過石灰ホルドウ液4斗ニ亞硫酸鉛(砒酸鉛)50匁混用4回撒布	717	655	62	91.3	8.7
	4. 全上4斗ニ亞硫酸鉛(砒酸鉛)75匁混用4回撒布	747	690	57	92.3	7.7
	5. 石灰硫黃合劑ホーメー0.1度液4斗ニ亞硫酸鉛(砒酸鉛)50匁混用4回撒布	577	542	35	93.9	6.1
	6. 標準區在來法 石灰ホルドウ液4回撒布	539	496	43	92.0	8.0
大正七年度	7. 3斗5升式等量石灰ホルドウ液3斗5升ニ亞硫酸曹達液1合混用2回撒布	702	555	147	78.9	21.1
	8. 全上液3回撒布	695	580	115	83.5	16.5
	9. 全上液4回撒布	720	603	117	83.8	16.2
大正八年度	10. 石灰硫黃合劑ホーメー0.2度液3回撒布(標準區) 第1回撒布石灰硫黃合劑ホーメー0.2度液8斗ニ亞硫酸曹達液1合混用 第2,3,4回撒布ハ全液ホーメー0.1-0.15度液8斗ニ砒酸鉛(亞硫酸鉛)120匁混用撒布	727	529	198	72.8	27.2
	11. 上記第7區ニ全シ	633	550	83	86.9	13.1
	7. 上記第7區ニ全シ	950	437	513	46.0	54.0
	8. 上記第8區ニ全シ	1135	584	551	51.5	48.5
	9. 上記第9區ニ全シ	1095	587	508	53.7	46.3
	12. 過石灰ホルドウ液3回撒布(標準區)	774	307	467	39.7	60.3

成績概要 以上記述本年度ノ成績ヲ見レバ第3區即チ石灰ホルドウ液ニ亞硫酸曹達液ヲ混用シ4回撒布ノモノ最モ成績優良ニシテ使用法亦輕便ナリト雖ドモ其ノ収益ニ至リテハ同上3回撒布多キヲ見ル、且大正6年度ヨリノ成績ヲ以テ之レヲ判斷スルニ毒劑ヲ石灰硫黃合劑ニ混用撒布セルモノハ何

レモ最モ優良ナル成績ヲ示スト雖ドモ毒劑ノ爲メニ葉果ノ損傷セラル、コト甚ダシク之レガ使用ニ就テハ尙充分ノ研究ヲ必要トス、故ニ目下ノ處ニ於テハ石灰ホルドウ液ニ毒劑ヲ混用シ其ノ回数モ亦3-4回ヲ可トスルモノノ如シ。更ニ注目ヲ要スルハ被害果ノ年々増加セル事ナリ、即チ大正6年ニ在リテハ標準區ノ被害歩合8.0%ナルニ大正7年ニハ27.2%大正8年ニハ60.3%ニ達セリ、是レ主トシテ姬心喰虫ノ加害ニヨルモノト認ムベク之レガ完全ナル防除法ノ發見ハ本縣梨栽培上ノ死活問題トナルベキヤ必セリ、然モ從來ノ如ク2度袋掛及石灰ホルドウ液又ハ石灰硫黃合劑ヲ袋掛前ニミ使用スルノ方法ハ益々悲觀セザルベカラザルノ状態ニアリ、即チ今後ノ問題ハ今數歩ヲ進メテ藥劑ノ使用、袋掛ノ改良、並ニ姬心喰虫ノ發生豫防法等ノ研究ニ移ラザルベカラズ

本虫豫防驅除ノ方法ニ關シテハ更ニ繼續研究ル處アラントス

2. 茄立枯病防除試驗 (繼續第3年)

目 的 茄子ヲ連作シ立枯病ノ發生ヲ防除スル方法ヲ知ラン爲メ石灰硫黃合劑ニテ土壤ヲ消毒シ其ノ効果ヲ驗セントスルニアリテ北蒲原及中蒲原兩郡ニ於テ施行セリ

方 法 次ノ區別ニヨル

區別	試 驗 別	方 法
1	1 回 消 毒	石灰硫黃合劑ホーメー2度液ヲ圃場整地ノ際1坪1升5合ノ割合ニ撒布ス
2	2 回 消 毒	石灰硫黃合劑ホーメー1度液ヲ圃場整地ノ際第1區同様ニ撒布シ更ニ6月中下旬全液0.5度液ヲ根元ニ坪1升5合ノ割合ニ撒布ス
3	3 回 消 毒	石灰硫黃合劑ホーメー1度液ヲ前區同様ニ撒布シ6月中旬及7月上中旬ノ頃1.2回ニ全液ホーメー0.3度液ヲ前區同様ニ撒布ス
4	無消毒連作	—

1. 北蒲原郡中蒲村林四平氏擔當

本年度及累年比較成績次ノ如シ(早生萬成茄子ヲ用フ)

(1) 本年度發病株數及歩合

區別	全株數	立 枯 發 生 數						立枯發病歩合	立枯病以外ノ枯死數	全枯死歩合
		6月23日	7月3日	7月15日	7月25日	8月4日	計			
1	36	—	1	—	1	—	2	5.6	—	5.6

2	36	-	1	-	-	-	1	2.8	1	5.6
3	36	-	-	-	-	-	1	2.8	-	2.8
4	36	1	2	-	-	1	4	11.2	2	16.7

(2) 累年發病歩合

區 別	大正6年度	大正7年度	大正8年度	合 計	平均歩合
1	14.2	52.8	5.6	72.6	24.2
2	19.4	50.0	2.8	72.2	24.1
3	5.6	33.3	2.8	41.7	13.9
4	38.9	100.0	11.2	150.1	50.3

(3) 本年度収量及價格

區 別	1	2	3	4	
7月上旬	個數(個)	14	16	19	14
	重量(匁)	56	64	76	56
	價格(圓)	38	44	56	38
7月中旬	個數(個)	70	76	79	62
	重量(匁)	310	345	400	284
	價格(圓)	149	156	171	129
7月下旬	個數(個)	155	166	179	134
	重量(匁)	740	890	950	660
	價格(圓)	250	270	290	215
8月上旬	個數(個)	266	202	267	137
	重量(匁)	1246	992	1275	737
	價格(圓)	394	202	393	224
8月中旬	個數(個)	250	263	301	195
	重量(匁)	1136	1220	2350	860
	價格(圓)	250	263	301	195
8月下旬	個數(個)	359	426	531	224
	重量(匁)	1450	1687	2070	855
	價格(圓)	293	367	447	179
9月上旬	個數(個)	338	530	666	247
	重量(匁)	1365	2125	2590	950
	價格(圓)	265	411	512	188

9月中旬	個數(個)	342	580	735	271
	重量(匁)	1390	2250	2780	1065
	價格(圓)	238	413	522	192
9月下旬	個數(個)	309	504	631	144
	重量(匁)	1320	1970	2250	1300
	價格(圓)	206	334	418	101
合 計	個數(個)	2103	2768	3408	1428
	重量(匁)	9013	11543	14741	6827
	價格(圓)	2083	2560	3110	1461

(4) 累年収量及價格

區 別	1	2	3	4	
大正6年	個數(個)	2730	2872	3665	1529
	重量(匁)	12094	13632	15099	7920
	價格(圓)	1807	1893	2393	1192
大正7年	個數(個)	1472	1521	2908	392
	重量(匁)	6815	6870	8315	2335
	價格(圓)	1344	1336	1703	420
大正8年	個數(個)	2103	2768	3408	1428
	重量(匁)	9013	11543	14741	6827
	價格(圓)	2083	2560	3110	1461
合 計	個數(個)	6305	7161	9981	3349
	重量(匁)	27322	32045	38155	17082
	價格(圓)	5234	5789	7206	3073
平 均	個數(個)	2102	2387	3327	1116
	重量(匁)	9307	10682	12718	5694
	價格(圓)	1745	1930	2402	1024

備考 當依託試驗地方ノ平均収量ハ10,000匁2,800個内外ナリ
 今次ニ此ノ平均収量ヲ100トシ以上3ヶ年平均ノ百分率ヲ計算スルトキハ
 次ノ如シ

區別	試 驗 別	平 年 収 量		3ヶ年平均収量		百 分 率 (%)	
		個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量
1	1回消毒	2,800	10,000	2,102	7,914	75.1	79.1
2	2回消毒	2,800	10,000	2,387	9,207	85.2	92.1
3	3回消毒	2,800	10,000	3,327	11,528	118.8	115.3

4	無消毒	2,800	10,000	1,116	4,581	39.9	45.8
---	-----	-------	--------	-------	-------	------	------

(5) 本年度生育 (36株平均)

區別	6月23日草丈	7月5日草丈	7月15日草丈	8月1日草丈	9月15日草丈
1	6.80	9.84	13.29	25.29	36.44
2	6.30	10.30	14.50	25.40	35.00
3	7.50	11.10	13.50	29.40	40.40
4	6.90	9.70	11.30	24.50	33.90

然レ共枯死セル株ヲ除キタル場合ノ各株ノ草丈ヲ以テ生育ノ程度ヲ見ルニ次ノ如シ

區別	6月23日草丈	7月5日草丈	7月15日草丈	8月1日草丈	9月15日草丈
1	6.80	9.84	13.29	25.29	37.83
2	6.30	10.30	14.50	25.40	36.00
3	7.50	11.10	13.50	29.40	40.40
4	6.90	10.30	12.20	26.70	39.40

即チ無消毒區ハ第1,2區ニ比シテ少シク良好ナル生育ヲナスモ第3區ニ比シテハ劣レルヲ見ルベシ

□. 中蒲原郡小合村石月恭平氏擔當 (中生山茄子ヲ用フ)

(1) 本年度發病歩合

區別	株數	立枯病株數						發病歩合(%)
		6月30日	7月20日	8月10日	8月30日	9月2日	計	
1	40	2	1	1	1	2	7	17.5
2	40	1	2	—	2	—	5	12.5
3	40	—	1	1	2	—	4	10.0
4	40	5	7	3	2	2	19	47.5

(2) 本年度収量價格及生育狀況

區別	個數	價格(圓)	生育狀況	收穫初	收穫終
1	2631	1,316	草丈ハ7月下旬ヨリ不齊トナル	7.11	10.25
2	2713	1,307	草丈長ク平均シ良好ナリ	7.15	10.25
3	3320	1,708	草丈長ク齊一シ最モ優良ナリ	7.15	10.25
4	1561	.790	草丈ハ初メヨリ不齊ニシテ劣悪ナリ	7.11	10.10

成績概要 以上ノ成績ヨリ結論スルニ茄立枯病及青枯病等土壤傳染ヲナス病害防除トシテ石灰硫黃合劑ヲ以テ消毒スルノ方法ハ從來ノ何レノ方法ヨリモ其効力顯著ニシテ一點ノ疑義ナキヲ知ル、然レ共石灰硫黃合劑ト茄子トノ關係ニ就テ尙精密ナル各種ノ試驗ヲ施行シ以テ之レガ事實ノ簡明ニ努メントス

3. 白菜腐敗病防除試驗 (繼續第3年)

白菜ノ最モ恐ルベキ腐敗病ヲ防除センガタメ石灰硫黃合劑ヲ以テ土壤消毒ヲ行フト同時ニ其誘因ヲナス黃筋蚤虫ノ驅除法ヲモ行ヒ以テ其ノ効果ヲ驗セントス

位 置 北蒲原郡中浦村 林四平氏ニ依托

試驗區別及方法

區別	試 驗 別	方 法
1	土壤消毒1回 キスザノミムシ驅除3回	整地ノトキ石灰硫黃合劑ホーモー2度液坪1升5合ニテ消毒、發芽後直チニ除虫菊木灰合劑坪15匁ヲ撒布シ後15—20日目ニ尙1回之レヲ撒布ス
2	土壤消毒4回 キスザノミムシ驅除3回	全上第2回除虫菊木灰合劑撒布後15—20日目ニ尙1回撒布シ同時ニ石灰硫黃合劑0.3度液ヲ3回根本ニ撒布ス
3	標 準	整地ノ際石灰硫黃合劑ニテ消毒セズ其他ハ第2區ニ同シ

成 績 (供試種芝罘)

(1) 發芽及生育狀況並ニ實施

下種期 8月20日

發 芽 各區共8月23日齊一ニ發芽ス

生 育 9月1日第1回間引ヲナス、各區共ニ生育良好ナリ

整 地 8月19日之レヲ行ヒ其ノ際石灰硫黃合劑ヲ以テ土壤消毒ヲナス、猶第2區ノ第2回藥劑撒布ハ9月5日之レヲ行ヒ又除虫菊木灰合劑ハ第1回8月30日、第2回9月8日、第3回9月18日ニ撒布セリ

(2) 収量及病虫害發生狀況

區別	第 1 區	第 2 區	第 3 區
收 量 (貫)	32,000	25,000	25,000
價 格 (圓)	8,000	6,250	6,250
總 株 數 (株)	120	120	120

發病數 (株)			
發病歩合 (%)			
反當換算	取量	960.000	750.000
	價格	240.000	187.500
	總株數	3.600	3.600
發病數			750.000
			187.500
			3.600

(3) 収支調査

區別	第1區	第2區	第3區
藥劑撒布費 (圓)	.116	.249	.050
除虫菊木灰合劑費 (圓)	.030	.030	.030
石灰硫黃合劑費 (圓)	.132	.186	—
10坪合計費用 (圓)	.278	.465	.080
反當費用 (圓)	8.340	13.950	2.400
反當賣上高 (圓)	240.000	187.500	187.500
差引利益 (圓)	231.660	173.550	185.100
增收歩合 (%)	39.2	29.4	31.4

(4) 累年平均

區別	第1區	第2區	第3區	
大正6年	被害歩合 (%)	5.8	5.0	13.3
	反當取量 (貫)	540.000	270.000	480.000
	反當利益 (圓)	71.844	25.911	62.222
	利益歩合 (%)	44.8	16.8	38.4
大正7年	被害歩合 (%)	0.8	0.8	2.5
	反當取量 (貫)	900.000	600.000	795.000
	反當利益 (圓)	172.260	107.490	156.780
	利益歩合 (%)	39.4	24.6	36.0
大正8年	被害歩合 (%)	—	—	—
	反當取量 (貫)	960.000	750.000	750.000
	反當利益 (圓)	231.660	173.550	185.100
	利益歩合 (%)	39.2	29.4	31.4
平均	被害歩合 (%)	2.2	1.9	5.3
	反當取量 (貫)	800.000	540.000	675.000
	反當利益 (圓)	158.588	102.317	134.701
	利益歩合 (%)	41.1	23.6	35.3

成績概要 白菜ノ最モ恐ルベキ腐敗病ハ石灰硫黃合劑ヲ以テ土壤ヲ消毒スルコトニヨリテ之レヲ除去セラル、ハ前年度マデノ成績ニヨリテ之レヲ明ラカニセリト雖モ本年度ニ於テハ各區共發病ヲ見ザルガ故ニ此ノ關係ヲ知ルヲ得ザリシモ、其ノ収量ニ在リテハ第一區即チ石灰硫黃消毒1回除虫菊木灰合劑2回撒布區最モ多ク其ノ収量歩合モ亦最大ナルハ良ク前年ト一致スル處ナリ、故ニ石灰硫黃合劑土壤消毒及除虫菊木灰合劑ヲ以テ腐敗病及其ノ誘因ノ最大ナル黃筋蚤虫ノ除害ヲ行フ場合ニハ其ノ回数ノ2回以上ニ亙ラザルヲ可トスルモノナリト認ム

4. 馬鈴薯病虫害防除試験 (繼續第3年)

目的 本縣山地方面ニ於テ馬鈴薯ニ發生スル最モ恐ルベキ大二十八星瓢虫及疫病、青枯病ノ防除法ヲ知ラントスルモノナリ
位置 中頸城郡中郷村 荻野初太郎氏ニ依托
試験區別及方法

區別	試験別	濃度	備考
1	亞硫酸曹達液加用石灰ホルド下液4回撒布	4斗式4斗ニ對シ亞硫酸曹達原液1合混入	—
2	全上3回撒布	全上	第1回ナ撒布セズ
3	全上2回撒布	全上	第1第2回ナ撒布セズ
4	無撒布	—	—

撒布回数及期日

- 第1回 大二十八星瓢虫ノ成虫現ハレ産卵セル當時
- 第2回 同上幼虫ノ孵化當時
- 第3回 第2回撒布後10日目
- 第4回 第3回撒布10日目

備考 石灰ホルドウ液ノ調合量ハ硫酸銅120匁、生石灰240匁、水4斗トス

試験成績

(1) 収量價格及被害株數

區別	第1區	第2區	第3區	第4區
上薯収量	重量	61.000	56.000	55.000
	價格	10.370	9.520	9.350

中薯全上	重量	6,000	8,000	11,000	9,000
	價格	.720	.960	1.320	1.080
下薯全上	重量	—	—	—	21,000
	價格	—	—	—	1.680
合計	重量	67,000	64,000	66,000	30,000
	價格	11,090	10,480	10,670	2,760
全株數(株)		562	562	568	568
病害發生株數(株)		—	—	—	—
大二十八星瓢虫被害株數(株)		12	20	50	560
病害發生歩合(%)		—	—	—	—
害虫加害歩合(%)		2.1	3.6	8.8	98.6
反當収量(貫)		670,000	640,000	660,000	300,000
全上價格(圓)		110,900	104,800	106,700	27,600

備考 價格ハ上薯1貫17錢並薯1貫12錢下薯1貫8錢ナリ

(2) 収支計算

區別	第1區	第2區	第3區	第4區
藥劑價格	.235	.202	.134	—
全上撒布勞銀	.416	.312	.208	—
合計	.651	.514	.342	—
全上反當換算	6,510	5,140	3,420	—
反當収益	110,900	104,800	106,700	27,600
差引利益	104,390	99,660	103,280	27,600
增收額	76,790	72,060	75,680	—
增收比	3.782	3.611	3.738	1.000

(3) 生育狀況

區別	第1區	第2區	第3區	第4區
第1回撒布當時草丈	尺 .600	尺 .600	尺 .600	尺 .600
第2回全上	1.300	1.300	1.300	1.300
第3回全上	1.600	1.600	1.600	1.500
第4回全上	1.800	1.700	1.600	1.100
狀况	最良好	良好	良好	最不良葉ハ被害ノ爲メニ赤褐色ニ枯死ス

(4) 作業

下種期 4月20日

補植 5月20日

藥劑撒布期 第1回5月26日, 第2回6月17日, 第3回6月28日, 第4回7月8日

収穫期 7月28日

追肥期 第1回5月16日, 第2回5月26日, 第3回6月3日

(5) 累年平均

區別	第1區	第2區	第3區	第4區
大正6年	被害歩合(%)	—	—	100.0
	反當収量(貫)	520,000	75,500	40,000
大正7年	被害歩合(%)	.5	1.3	1.8
	反當収量(貫)	400,000	370,000	350,000
大正8年	被害歩合(%)	2.1	3.6	8.8
	反當収量(貫)	670,000	640,000	660,000
平均	被害歩合(%)	.9	1.6	3.5
	反當収量(貫)	374,000	361,833	350,000
	反當収量比較	2.465	2.392	2.307
				1.000

成績概要 本年度ニ於テハ第1區即チ藥劑4回撒布區最モ有効ニシテ且ツ又其ノ収益最モ大ナリ, 即チ無撒布區ニ比シテ3.782倍即チ約4倍ノ利益アリ之レヲ既往ノ成績ニ比較スルニ良ク一致シ何レモ4回ノ藥劑撒布ヲ最モ有利トス, 故ニ馬鈴薯大二十八星瓢虫並ニ疫病ノ豫防ニハ目下ノ處亞硫酸曹達液加用過石灰ボルドウ液4斗式液ヲ撒布スルヲ可トスルモノト認ム

5. 桃蚜虫防除試験 (新設)

目的 桃ニ發生シ大害ヲ與フル蚜虫ノ防除法ヲ知ラントスルニアリ
位置 刈羽郡北鯖石村阿部啓治氏ニ依トス
供試樹 離核水蜜10年生樹各區5本宛計15本ヲ以テス

試験區別及方法

區別	試驗別	藥劑調合量
1	除虫菊石鹼合劑3回撒布	除虫菊粉3匁, 浮石鹼2匁, 水1升
2	除虫菊加用石油乳劑40倍液3回撒布	除虫菊粉20匁, 浮石鹼20匁, 石油1升, 水5合
3	摘採法(發生ニ從ヒ芽ト共ニ摘採)	—

撒布時期 第1回 發芽當時, 第2回 第1回撒布14日後, 第3回 第2回撒布14日後

(1) 収 量

區別	第1回收穫	第2回收穫	合 計	1貫匁價格
1	5,000	12,500	17,500	.600
2	10,000	10,000	20,000	.600
3	10,000	12,500	22,500	.500

(2) 効 果

區別	藥 害 ノ 有 無			蚜 虫 發 生 ノ 有 無			收 穫 當 時
	第1回撒布	第2回撒布	第3回撒布	第1回收穫當時	第2回收穫當時	第3回收穫當時	
1	ナシ	ナシ	ナシ	發生セズ	發生セズ	發生セズ	稍々發生セルモ收穫ニ變リナシ
2	全上	全上	全上	全上	全上	發生セルモ摘心ス	發生ス 稍々發生セルモ收穫ニ變リナシ
3	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上

(3) 支 出

區別	第1回藥劑撒布藥價及人夫賃	第2回藥劑撒布藥價及人夫賃	第3回藥劑撒布藥價及人夫賃	合 計
1	藥 價 .200	.200	.200	.600
	人夫賃 .100	.100	.100	.300
2	藥 價 .230	.230	.230	.690
	人夫賃 .100	.100	.100	.300
3	人夫賃 -	-	摘心ニ要セシ女人夫賃 .200	.200

(4) 収支計算

區別	賣却収入	支出合計	差引収益	備 考
1	10,500	.900	9,600	例年ニ比シ果揃一般ニ
2	12,000	.990	11,010	真好ニシテ價格亦例年
3	11,250	.300	11,050	ニ比シ真シ

(5) 生育狀況及作業

開花期 4月20日
開葉期 4月25日
袋掛期 6月28日

收穫期 8月1日

藥劑撒布期 第1回4月28日, 第2回5月10日, 第3回5月25日

害虫發生狀況 例年ニ比シ僅少ナリ

成績概要 本年度ノ絶對的成績ニアリテハ發生スルニ從ヒ新芽ト共ニ摘採スル方法最モ有利ニシテ藥劑撒布ハ何レモ之レニ比シ不利益ナリト雖モ今之レヲ収量對價格上ヨリ見ルニ藥劑撒布區ハ1貫匁ノ價格60錢ナルニ比シ摘採區ハ50錢ニ過ギズ, 之レ摘採區ハ只其ノ當初ノ發生ノミヲ除クヲ得ルモ夏季ニ於テハ良ク其ノ繁殖ヲ制限シ得ザルニヨル結果果實ノ生産量ニ於テハ例年多キヲ示スト雖モ品質上ノ欠點ヲ生ズルモノト認メラル, 故ニ摘採方法ハ此ノ點ニ於テ欠點ヲ認ムルヲ得ベシ, 藥劑撒布方法中除虫菊加用石油乳劑ハ其ノ効力大ニシテ成績優良ナルモノ、如シ

6. 大豆病害防除試験 (繼續第5年)

目 的 大豆ニ發生シ其ノ生育ヲ不能ナラシムル俗稱月夜病ニ關シ試験スルモノニシテ一面又依託地土壤ニ類似セル地方ニ於ケル利用ニ資セントスルニアリ

位 置 中魚沼郡下船渡村及水澤村(郡農會ニ依トス)

1. 肥料施用量トノ關係試験 (繼續第2年)

施肥量ト本病トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ各區10坪ヲ用フ

試 驗 區 別

區別	試 驗 別	方 法	反 當 量		
			窒 素	磷 酸	加 里
1	無肥料區	-	-	-	-
2	本場標準肥料區	人尿30貫, 藥灰24貫, 強過磷酸石灰3貫	.153	1.062	.888
3	石灰窒素施用區	石灰窒素15貫施用	2.703	1.062	.888
4	全 上	全上 21貫施用	3.723	1.062	.888
5	全 上	全上 27貫施用	4.743	1.062	.888
6	正面ク原普通肥料施用區	堆肥150貫, 人尿30貫, 強過磷酸石灰6貫	.864	2.090	1.039
7	全上 燐酸増用區	全上肥料ニ強過磷酸石灰6貫加用	.864	4.180	1.039
8	硫酸アモモニヤ施用區	硫酸アモモニヤ2貫300匁施用	1.728	2.090	1.039
9	全 上	全上 4貫600匁施用	2.592	2.090	1.039
10	全 上	全上 6貫900匁施用	3.458	2.090	1.039

2. 肥料要素トノ關係試験 (繼續第2年)

肥料三要素ト本病トノ關係ヲ知ラントスルニアリ、各區10坪ヲ用フ
試驗區別

區別	試驗別	施肥量
1	無肥料區	—
2	窒素單用區	窒素ハ硫酸アンモニアニテ2貫ヲ施ス
3	磷酸單用區	磷酸ハ過磷酸石灰ニテ2貫ヲ施ス
4	加里單用區	加里ハ木灰ニテ2貫ヲ施ス
5	三要素施用區	窒素ハ硫酸アンモニアニテ、磷酸ハ過磷酸石灰ニテ、加里ハ木灰ニテ各々2貫ヲ施用ス

ハ. 深耕トノ關係試驗 (繼續第2年)

本試驗ハ大豆病害ト深耕トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ各區10坪宛ヲ用フ、施肥量ハ(4)ノ第6區ニ同ジ

試驗區別及方法

區別	試驗別	方法
1	從來ノ深度區	從來ノ深度即チ2寸ニ耕起ス
2	4寸深耕區	6寸ニ耕起ス

ニ. 乾燥トノ關係試驗 (繼續第2年)

大豆病害ト土地乾燥トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ各區10坪宛用ヒ施肥量ハ(ハ)試驗ニ同ジ

試驗區別及方法

區別	試驗別	方法
1	標準區	—
2	敷藁區	地表1寸ノ厚サニ6月下旬—7月中旬頃ニ藁ヲ敷ク

ホ. 病虫害防除藥劑使用試驗 (繼續第2年)

大豆病害ヲ防除センガ爲メニ各種ノ藥劑ヲ施用シ防除トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ各區10坪宛ヲ用ヒ施肥量ハ(ハ)試驗ニ同様ナリ

試驗區別及方法

區別	試驗別	方法
1	標準區	—

2	石灰硫酸合劑土製消毒區	播種2—3日前ホーロー2度液ヲ1坪2升内外ノ割合ニ撒布シ土製ヲ消毒ス
3	ナフタリン乾土合劑撒布區	1坪10匁内外ノ割合ニ6月下旬及7月上旬ノ2回撒布ス
4	硫黃華撒布區	播種前元肥ニ混シ1坪5匁内外ノ割合ニ施用ス
5	ナフタリン石灰合劑撒布	第3區同様ニ施用ス

備考 ナフタリン乾土合劑ハナフタリン1合乾燥細土6合ノ割合ニ混シ1—2日間密閉セルモノナリ、又ナフタリン石灰合劑ハナフタリン1合、消石灰6合ノ割合ニ混和シ同様ニ調製セルモノナリ

作 業

水澤村猪原試驗地ノ作業ハ5月30日整地シ5月31日施肥及播種、6月19日補播ヲナセリ、7月17日中耕ヲ行フ、除草ハ7月17日第1回ヲ行ヒ後數回之レヲナス、藥劑及肥料ヲ播種前ニ施用スベキ必要アルモノハ何レモ必要日數前ニ之レヲ行ヘリ耕種作業ハ正面ケ原試驗地ニ同ジ

下船渡村正面ケ原試驗地6月4日深サ4寸ニ馬耕シ6月10日施肥及粗畦ヲ立テ6月14日更ニ2尺巾ノ畦ヲ造リ播種セリ、株間ハ1尺2寸、2粒宛播下シ深サ1寸ニ覆土セリ、7月12日第1回除草、7月23日第2回除草及中耕ヲ行ヒ、10月5日収穫セリ

成 績

(i) 生 育

試驗區別	區別	7月30日調査			10月5日調査(收穫期)				
		草丈(尺)	葉色	橫枝(本)	草丈(尺)	葉色	橫枝(本)		
肥料施用量トノ關係試驗	1	.70	黄青	—	.70	黄	—		
	2	1.20	綠	3	1.20	全	3		
	3	.68	黄綠	2	.70	全	2		
	4	.68	全	—	.70	全	—		
	5	.78	黄青	—	.80	全	—		
	6	1.10	淡綠	2	1.10	黄青	2		
	7	1.00	全	2	1.00	全	2		
	8	1.00	綠	3	1.10	全	3		
	9	1.10	濃綠	4	1.10	落葉	4		
	10	1.20	全	3	1.20	全	3		
試驗區別	區別	9月19日調査			10月6日調査(收穫當時)				
		草丈(尺)	葉色	葉數 生育	草丈(尺)	葉色	葉數 生育		
肥料要素トノ關係試驗	1	.30	黄	多	不長	.30	—	落葉ス	—
	2	.80	全	稍々多	長	.80	—	全	—

肥料要素トノ關係試驗	3	.80	黃	稍々多	頁	.80	—	落葉ス	—
全	4	.80	全	全	全	.80	—	全	—
全	5	1.60	青	多	全	1.70	黃	多	—
深耕トノ關係試驗	1	.40	黃	少	不頁	.40	—	落葉ス	—
全	2	1.30	青	多	頁	1.50	黃	多	—
病虫害防除藥劑使用試驗	1	1.00	黃	少	不頁	1.00	全	少	英ナキ 株有リ
全	2	1.40	青	多	全	1.50	全	多	—
全	3	1.60	全	稍々多	頁	1.70	全	落葉	—
全	4	.40	黃	少	不頁	.70	—	落葉ス	—
全	5	.80	全	全	全	1.00	黃	落葉	—

尙9月23日出張ノ際其ノ草丈、根長、莢數等ニツキ調査セル成績次ノ如シ

試驗區別	區名	草丈(尺)	根長(尺)	莢數
肥料施用量トノ關係試驗	1	.731	.327	1.66
全	2	1.642	.863	5.16
全	3	1.640	.970	21.50
全	4	1.702	1.240	24.40
全	5	1.768	1.390	18.75
全	6	1.286	.891	1.57
全	7	1.862	1.158	11.50
全	8	1.240	.975	8.25
全	9	2.075	1.433	15.50
全	10	2.192	1.468	18.40
肥料要素トノ關係試驗	1	1.099	.896	10.86
全	2	1.000	.843	7.25
全	3	1.135	.780	4.66
全	4	1.126	1.036	6.40
全	5	1.963	1.170	28.25
深耕トノ關係試驗	1	1.441	1.082	6.70
全	2	1.440	1.168	11.66
病虫害防除藥劑使用試驗	1	.890	.784	7.00
全	2	1.385	1.188	13.75
全	3	.920	.636	11.60
全	4	1.216	.861	6.71
全	5	.946	.658	2.13

(2) 収 量

試驗區別名	區名	1株平均 莢數	収量	種實重量	莖重量	反當収量
肥料施用量トノ關係試驗	1	3	.0024	.840	6.450	.072
全	2	5	.0036	1.290	9.000	.108
全	3	23	.0165	8.340	6.000	.495
全	4	23	.0162	8.280	10.050	.486
全	5	15	.0110	6.600	6.000	.330
全	6	7	.0051	1.710	4.200	.153
全	7	5	.0036	1.200	9.000	.108
全	8	8	.0063	6.220	8.400	.189
全	9	20	.0150	7.890	10.500	.450
全	10	30	.0225	10.380	14.700	.675
肥料要素トノ關係試驗	1	8	.0060	2.100	4.200	.180
全	2	12	.0063	2.100	5.760	.189
全	3	8	.0036	1.230	5.400	.108
全	4	10	.0057	1.920	6.600	.171
全	5	20	.0114	6.750	14.100	.342
深耕トノ關係試驗	1	10	.0048	1.620	4.950	.144
全	2	16	.0084	2.820	12.300	.252
病虫害防除藥劑使用試驗	1	4	.0012	.450	4.500	.036
全	2	14	.0072	2.490	8.730	.216
全	3	16	.0086	2.970	13.350	.261
全	4	8	.0033	1.140	3.300	.099
全	5	8	.0030	.990	5.400	.090

成績概要 肥料施用量トノ關係試驗、以上ノ成績ニヨレバ硫酸アンモニヤ反當6貫900匁施用セルモノ最モ生育良好ニシテ石灰素窒21貫、全27貫區之ニ亞ギ無肥區最モ劣レリコレニヨツテ之ヲ見レバ窒素質肥料ノ増加ニヨリ幾分防除セラレ得ルモノ、如シ

肥料要素トノ關係試驗、完全區(三要素施用)最モ生育佳良ニシテ窒素、加里、磷酸單用區ノ順次之ニ次グ

深耕トノ關係試驗、深耕ニ利アルモノ、如シ

防除劑トノ關係、播種前元肥ニ混ジ硫黃華1坪5匁施用セルモノ最モ佳良ニシテナフタリン乾土合劑ヲ2回撒布セルモノコレニ亞ギ石灰硫黃合劑土壤消毒區最モ不良ニシテ他ノ二者ノ間ニハ大差ナシ

以上ニヨリ肥料ノ施用法ノ如何即チ窒素質肥料ノ施用ト深耕ト今一ツ藥

劑的驅除法トニヨリ被害ヲ輕減セシムルコトヲ知リ得タリ

野鼠チプス菌配布

郡市名	恙 蟲 有 毒 地			農 耕 地		
	春	秋	小 計	春	秋	小 計
岩 船	—	—	—	180.0	231.0	411.0
北 蒲 原	366.9	113.0	479.9	53.0	—	53.0
東 蒲 原	—	—	—	—	20.0	20.0
中 蒲 原	409.0	9.0	418.0	310.0	85.0	395.0
西 蒲 原	15.0	—	15.0	33.4	501.0	534.4
南 蒲 原	101.0	—	101.0	60.0	—	60.0
古 志 島	478.0	—	478.0	31.1	2.2	33.3
三 島	—	25.0	25.0	95.0	—	95.0
刈 羽	—	—	—	340.0	202.0	542.0
中 魚 沼	—	—	—	45.4	650.0	695.4
南 魚 沼	52.7	52.7	105.4	135.0	—	135.0
中 頭 城	—	—	—	144.6	20.0	164.6
西 頭 城	—	—	—	250.0	7.0	257.0
新 頭 城 鴻	—	—	—	—	102.0	102.0
長 頭 城 鴻 岡	43.0	—	43.0	122.2	—	122.2
高 頭 城 鴻 岡 田	—	—	—	150.0	150.0	300.0
其 他	—	—	—	—	70.0	70.0
計	1465.6	199.7	1665.3	1949.7	2040.2	3989.9

同 上

郡市名	合 計			配 布 瓶 數		
	春	秋	計	春	秋	計
岩 船	180.0	231.0	411.0	18	24	42
北 蒲 原	419.9	113.0	532.9	45	12	57
東 蒲 原	—	20.0	20.0	—	2	2
中 蒲 原	440.0	94.0	534.0	73	10	83
西 蒲 原	48.4	501.0	549.4	6	12	18
南 蒲 原	161.0	—	161.0	17	—	17
古 志 島	509.1	2.2	511.3	56	1	57
三 島	95.0	25.0	120.0	10	3	13
刈 羽	340.0	202.0	542.0	34	21	55

中 魚 沼	45.4	650.0	695.4	5	65	70
南 魚 沼	187.7	52.7	240.4	23	9	32
中 頭 城	144.6	20.0	164.6	23	2	25
西 頭 城	250.0	7.0	257.0	25	1	26
新 頭 城 鴻	—	102.0	102.0	—	11	11
長 頭 城 鴻 岡	165.2	—	165.2	18	—	18
高 頭 城 鴻 岡 田	150.0	150.0	300.0	15	15	30
其 他	—	70.0	70.0	—	7	7
計	3136.3	2239.9	5376.2	368	195	563

病虫害防除組合

本年度ノ獎勵事業トシテ設置ヲ協定セル病虫害防除組合ハ次ノ如シ

中 蒲 原 郡

早通村茅野山梨樹病虫害驅除豫防組合

兩川村酒屋果樹病虫害驅除豫防組合

五泉町三本木下組病虫害驅除豫防組合

横越村二本木病虫害驅除豫防組合

中 頸 城 郡

鳥坂村姫ヶ原病虫害驅除豫防組合

中郷村藤澤病虫害驅除豫防組合

合 計 6 個 組 合

農業技術員養成部

農業技術員養成ノ目的ヲ以テ本年度ヨリ當場ニ農業技術員養成部ヲ開設シ大正8年4月ヨリ大正9年3月ニ亘ル1ケ年間養成シタリ其修得者氏名並ニ修得後ノ職業次ノ如シ

氏名	學歷	原籍	修得後ノ狀況	備考
荒木善事	甲種農學校	北蒲原郡笹岡村	自宅經營	
渡邊仁一郎	全上	西蒲原郡米納津村	西蒲原郡農事試驗場	
吉野實朗	全上	古志郡福戸村	北蒲原郡安田村技術員	
武田忠義	全上	刈羽郡鶴川村	縣農事試驗場	
金子信真	全上	三島郡岩塚村	全上	
竹内辰榮	全上	東頸城郡下保倉村	西頸城郡上早川村技術員	
河原金太郎	乙種農學校	佐波郡河崎村	佐波郡赤泊村技術員	
木間珍	全上	全上	佐波郡農事試驗場	
渡邊寛一	全上	佐波郡新穂村	自宅經營	
進谷宇之吉	全上	北蒲原郡加治村	中蒲原郡農會	
山中省吾	全上	北蒲原郡紫雲寺村	縣農事試驗場	
市橋甚一	全上	刈羽郡石地町	自宅經營	
須藤平治美	全上	全上	全上	
猪俣多久治	全上	古志郡栖吉村	古志郡上鹽谷村技術員	
岩崎萬里	全上	東頸城郡安藤村	穀物検査所東頸城郡支所	
勝沼龜茂利	全上	古志郡下鹽谷村	中蒲原郡川東村技術員	
山井惣一郎	全上	全上	南蒲原郡坂井村技術員	
田中謙太郎	縣立中學校	中蒲原郡四川村	縣農事試驗場	
猪股彦一	甲種實業學校	佐波郡河崎村	佐波郡眞野村技術員	小學校訓導兼務
佐久間喜一	本場研究生	北蒲原郡鴻沼村	自宅經營	
板垣源龜	相當認定	岩船郡高根村	全上	
渡邊吉三郎	全上	北蒲原郡五+公野村	市島家技術員	
星與吉	全上	北魚沼郡湯之谷村	自宅經營	
齋藤啓藏	全上	中蒲原郡曾野木村	全上	
佐藤耕平	全上	西蒲原郡太田村	西蒲原郡農事試驗場	長沼ト改姓
居多智賢	甲種農學校	中頸城郡直江津町		事故退場
長井進	乙種農學校	刈羽郡上條村		死亡
高橋利一郎	全上	三島郡宮本村		事故退場
和田慶太郎	中學卒業	西蒲原郡栗生津村		全上

庶務會計部

出張ニ關スル事項

用 務	回 數	日 數	平 均 日 數
農事講話及講習	50	126	2.5
園藝講話及講習	13	22	1.7
土性調査其他指導	17	95	5.6
依托試驗監督其他實地指導	7	39	5.6
農事調査指導並ニ視察	27	73	2.7
病虫害豫防驅除督勵	14	51	2.6
擔當人協議會	11	36	3.3
品評會共進會審査	12	53	4.4
馬耕競犁會其他	4	16	4.0
團地競作會審査其他	20	117	5.9
事務打合其他	61	112	1.8
野鼠驅除	3	12	4.0
採種田指導監督其他	26	121	4.7
原種田作會監督其他	112	158	1.2
麥作實地指導其他	8	41	5.1
管外出張	5	32	6.4
赴任	1	2	2.0
計	391	1106	2.3

報告發刊ニ關スル事項

發刊書類	部數又ハ枚數	發刊書類	部數又ハ枚數
特別報告第9號	200部	試驗場一覽	3,000枚
全 第10號	200部	採種團擔當人心得及規定	400部
全 第11號	200部	水稻獎勵原種特性表	1,300枚
全 第12號	200部	今朝白農報(今朝白組合發行)	24,000部
大正7年度事業報告	200部		

文書取扱件數

取	受	發	送	合	計
	4,223		3,593		7,816

參觀人員

參觀人員	特殊傳習受講者	合	計
11,692	521		12,213

大正10年5月10日印刷

大正10年5月15日發行

新潟縣農事試驗場

長岡市愛宕町

印刷人 茨木三次郎

長岡市坂之上町二丁目

印刷所 越北新報社



終